

教育ボランティア ガイドダンスブック 2025



教育ボランティアで、子どもや学校を知ろう

～教育ボランティアのすすめ～

教育学部長 長谷川 千秋

学生みなさんは、教育ボランティアがいつから始まったか、知っていますか。

教育ボランティアの前身となる活動が始まったのは2003年のことです。当時は「放課後学習チューター」という名称だったそうです。放課後に限定した活動だったのですね。2010年には、本冊子「教育ボランティアガイドブック」が発行されるようになりました。

現在、2024年度の活動では、放課後の学習支援だけでなく、小中学校等での授業の指導補助、部活動の支援、進路アドバイス、自学自習講座での支援、学童保育、児童養護施設や児童相談所での支援、県立科学館や大学図書館附属子ども図書室での活動など、内容も場所も多岐にわたっています。2024年度は、高校での総合的な学習の時間の補助や、ICT支援学生の研修と附属小中学校への派遣も始まりました。このように、教育ボランティアは、みなさんの先輩たちが積み重ねてきた歴史と、その長い時間の中でしっかりとした運営体制が形作られています。

教育ボランティアの良いところはたくさんありますが、その中で私が素晴らしいと思っていることを3点紹介したいと思います。

1点目は、学生運営委員会が運営に関わってくれていることです。初めてボランティアに入る学生対象の「教育ボランティア・スタートセミナー」（4月）は、学生運営委員会の発案で始まりました。活動はじめの「教育ボランティア・ガイダンス」、活動のしめくりとなる「教育ボランティア報告会」も当委員会が運営しています。報告会での学生同士の活動報告・意見交換は、自身の活動をふりかえるよい機会となるでしょう。本冊子巻末の「教育ボランティアニュース」も学生運営委員が執筆・編集している号があります。

2点目は、自分で活動内容を選べることです。受け入れ先との調整により活動日時も選ぶことができます。具体的にどんな活動をするのか、「教育ボランティア・ガイダンス」で情報を得てください。授業の時間割を組む際に、4年間の時間割バランスを考えながら教育ボランティアで活動する時間も作っておくと、教育ボランティアに入りやすくなります。

3点目は、子どもたちと関わる時間を持つことです。教師がどんな風に子どもと接しているか、子どもの見せる反応はどんな風か知っておくことは、後の教育実習で確実に生きてきます。ボランティア先の素敵な先生方や子どもたちから学ぶことは多いはずです。教育実習後には、実習経験が糧となり、より深い活動ができる場面が増えてくることでしょう。

大学での授業も大切にしながら、ぜひ教育ボランティアをはじめてみてください。また、学生運営委員会に入ることも検討してみてください。主体的に自ら学ぼうとする姿勢は、あなた自身の中にある可能性が芽をひらくきっかけとなり、学んで得たものは、あなた自身のものごとの見方・考え方を更新し、これからの人生を豊かにしてくれるはずです。

教育ボランティアは教師になるための第一歩

教育ボランティア委員会委員長

志 村 結 美

2024 年度は新型コロナウイルス感染症の影響から解放されて 2 年目ということもあり、教育ボランティア活動を活発に行うことができました。前・後期教育ボランティアガイダンスには、受け入れ先の学校や教育委員会等の皆様に数多く参加していただき、充実したガイダンスを行うことができました。そのおかげもあり、多くの団体に受け入れていただき、充実したボランティア活動を行うことができました。心より御礼を申し上げます。

本学の教育ボランティア活動の素晴らしいところは、2010 年度に発足した学生の運営委員会が教育ボランティアを支えていることにあります。前述の前・後期教育ボランティアガイダンスの運営はもちろんのこと、教育ボランティアスタートセミナー(教育ボランティアを初めて行う学生向け)や教育ボランティア報告会の企画・運営を 20 名近い学生で構成されている学生運営委員会が行っています。また、「教育ボランティアニュース」の発行の一部も担っていて、広くその活動を発信しています。学生の皆さんには、教育ボランティア活動に参加することと同様に、是非、教育ボランティア運営委員会にも積極的に参加して欲しいと期待しています。

さて、皆さんもご存じのとおり、教育ボランティア活動の意義は多岐にわたります。

まずは、教育現場を具体的に体験することにより、教員として必要な資質・能力を身につけることができます。大学生の時に、教育現場に直接触れることができるのは、教育実習以外では教育ボランティア活動のみです。本学でこの教育ボランティア制度が正式に行われるようになり 20 年近くになりますが、今や教員を目指す学生の皆さんにとって、必要不可欠なものとなっています。また、この教育ボランティア活動で初めて、児童・生徒としてではなく、教師としての立場で学校現場に携わるという人も多いと思います。「教員になりたい」という夢を現実にするために、積極的に参加して欲しいと思います。教員として必要なリーダーシップ、コミュニケーション能力、問題解決能力など、多くのスキルを身につけ、子どもたちとの関わりを通じて、忍耐力や柔軟性、教育へ情熱を深めることもできるのではないのでしょうか。また、多様な受け入れ先がありますので、様々なバックグラウンドや文化を持つ子どもたちと接し、異なる文化や経験を持つ子どもたちとの交流を通じて、相互理解や共感を深め、異なる視点や価値観を学びながら、広い視野を持つことができると思います。

また、教育ボランティア活動は子どもたちの学びや成長を支援する大切な役割を果たしています。学校や教育機関では、個々の子どもに対する十分なサポートが難しい場合もあります。学生のみなさんが教育ボランティアとして、教育現場に参加することで、個別最適な指導や学習支援を提供し、子どもたちの学びの機会を広げ、深める事ができるのです。子どもたちの成長や楽しそうな顔、きらきらとした瞳に触れることは、必ずや皆さん自身の満足感や幸福感、充実感を高め、「教員になりたい！」という気持ちを強くしてくれると思います。

以上のように、教育ボランティアは、教師になるための第一歩と言えます。一つのところに長くお世話になるのもいいですし、いろいろな学校園、施設等で活動するのもよいと思います。是非、教師になるための第一歩を踏み出し、教師への道を歩んでいきましょう！

教育ボランティア活動を始めるにあたって

本学の教育ボランティア活動は、学生による小中学校での学習指導を通じて、児童生徒の学力を向上させるとともに、教職を目指す皆さんの学びを深めるために、平成17年（2005年）からスタートしました。現在の活動は、学習指導だけでなく、学校行事・部活動の指導補助、障害のある児童生徒の支援、不登校児童生徒の支援など幅広いものとなっています。また、この教育ボランティア活動は社会参加実習として科目化されています。

1 教育ボランティア活動申込み手順

(1) 教育ボランティアガイダンスに参加する。

- ・前期（4月）と後期（10月）に開催します。
- ・教育ボランティアの受入先の方が活動内容などを説明して下さいます。併せて、提出書類や申込み方法の確認をします。

(2) 希望受入先を決定する。

- ・教育ボランティア活動を通じて、何を学ぶかをはっきりさせましょう。
- ・ガイダンス時の資料、CNSでの情報、学内掲示ポスター、交流会・報告会、先輩や友達の声等から活動先の情報収集を行いましょう。
- ・どこの受入先が自分に適しているか検討しましょう。
- ・学びの目的、他の授業への影響、活動日時や場所、交通手段等から考えてみましょう。

(3) 教職支援室へ名簿登録をする。

- ・Web上から申し込んで名簿登録をします。
- ・教育学部ホームページの学部内専用サイトにアクセスし、「教育ボランティア」の中にある「教育ボランティア登録」をクリックし、必要事項を記入して送信することによって申し込みます。※詳しくは、P9～10を参照。

(4) 「保険加入確認ならびに指導教員確認書」を提出する。

- ・自分が加入している保険の種類を確認し、「保険加入確認ならびに指導教員確認書」（P12参照）に必要事項を記入します。
- ・所属コースの先生方から活動の許可をいただき、「保険加入確認ならびに指導教員確認書」に署名・捺印をしていただけてください。
- ・ガイダンス実施日から1週間以内に、「保険加入確認ならびに指導教員確認書」を教職支援室に提出します。

(5) 活動前に受入先の先生方と日程調整等の相談をする。

- ・原則として、活動先の担当者の方から、電話・メール等で連絡があります。自分から勝手に連絡を取らないでください。

ただし、5月中旬までに連絡がない場合は、学生の皆さんが受入先に連絡を取り、具体的な相談をしてください。

※大学では事前に、受入先ごとに希望者の名簿一覧表を作成し、受入先に送付します。

- ・多くの学校等では、日程の調整等が確認されると、事前にボランティア活動を進めるにあたっての指導等が行われています。

(6) 活動を開始する。

- ・自分の学びの目的をしっかりと確認し活動を進めましょう。
- ・通年での活動は5月～2月、前期は5月～9月、後期は10月～2月を原則とします。
- ・実質的な活動のスタートは、5月中旬以降となります。

◇ 登録にあたっての補足

以下の学生は、「教育ボランティア活動申し込み手順」(3)(4)に加え、手続きが必要な場合があります。（「社会参加実習」の単位取得を希望する場合）

- ・教育学部大学院生は、「履修申請書」を教育教務に提出。（その他の単位）
- ・他学部生は、自分の所属学部の教務に「他学部聴講願」を提出。（その他の単位）
- ・特別支援教育特別専攻科の学生は、規定上単位取得はできない。活動は可能。

◇ 名簿登録の最終〆切

- ・12月の指定された日になります。
- ・この〆切は、原則として途中でボランティア募集があったものや特別な事情があったものに限ります。

2 教育ボランティアの記録・活動報告書・学びの活動記録

ただ単にボランティアの活動をしただけでは学びを深めることはできません。目標を立てて、活動で心に残ったことなどを記録にして、活動の振り返りをしてみると自己の成長や課題に気づくことができます。自己の学びの履歴として、少しずつ、活動記録を残してください。

下の(1)(2)は単位取得の要件であるため、入力・提出しない場合は単位取得ができません。

(1) 【キャリポ】教育ボランティアの記録

- ・学部内専用サイトから「キャリポ」にアクセスし、「教育ボランティアの記録」を1月10日までに入力します。
- ・活動前の入力、活動当日の入力、まとめの時期の入力が必要です。
- ・活動が2月まで継続する場合、2月分の活動については、見込みの計画を入力します。

(2) 活動報告書

- ・教育ボランティア活動の記録をA4版1／2ページ（45字20行）にまとめます。
- ・様式をCNSからダウンロードして作成し、データを、1月10日までに教職支援室にメールで提出します。（kyouikuv@yamanashi.ac.jp）
- ・提出された活動報告書の中から、いくつかを抽出して、次年度のガイダンスブックに「活動の報告」という形で載せます。（全員分ではない）

(3) 学びの活動記録

- ・毎回の活動時に持参し、活動日・活動時間を記録してから、受入先で印をもらいます。学生側の活動の控えとして、単位認定されるまで保管します。

教育ボランティア 学びの視点

1年～3年（入学から教育実習前）

	学びの視点	具体的な学び
①	指導者や教師の仕事	指導者や先生方の働く姿
②	理想の教師像	ボランティア先や自分が出会った先生
③	今の子どもの特徴	私の小・中学生の頃と今の子の違い
④	育てたい子ども像	学校の教育目標、これからの時代
⑤	学校・関係機関の役割	学校や関係機関の役割、関連
⑥	他の学生からの学び	観察、活動、話し合い等で具体的な発見
⑦	授業づくり・個別指導	授業構想、指導方法、教材教具・発問・板書等の工夫
⑧	話し合い活動	話し合いの仕掛け、意欲的な学び
⑨	コミュニケーション力	課題意識をもち、先生方等との対応
⑩	学級経営の充実	班づくり、係活動、人間関係づくりなど
⑪	施設や教室揭示等の環境	施設・教室・校内の掲示物、花壇等
⑫	児童生徒理解の方法	子どもとの接し方、一人一人の児童生徒の違いの理解、信頼関係づくり、
⑬	支援が必要な児童生徒	先生からの情報、児童生徒の実態把握
⑭	保護者・地域連携	学級・学校通信等、地域人材の活用
⑮	自ら設定した視点	具体的な指導計画や指導の実際等

教育実習

3年～4年（教育実習後から卒業前）

	学びの視点	具体的な学び
①	理想の教師像	私が目指す未来の教師像
②	目指す子ども像	子どもに身につけさせたい力と未来像
③	身に付けるべき教師力	教育実習先やボランティア先の先生方の教育実践や自己体験をもとに、教師力の再考、現段階で私自身が磨きをかけていくべき教師力、
④	授業づくりの方法や個別の学習指導のあり方	教育実習での課題を踏まえた、ボランティア先での授業づくりや個別指導のあり方、単元全体を見通した授業計画、授業（指導）構想、教材教具、発問、板書、話し合いやグループワーク等の工夫等、
⑤	児童生徒理解の方法	教育実習での児童生徒理解の振り返り、より深い児童生徒理解の方法の追及、
⑥	チーム学校、関係機関との連携	学校教育の諸課題等に対する学校校内外の連携
⑦	特別支援教育の進め方	交流学級の経営 児童の実態把握
⑧	自ら設定した視点	具体的な指導計画や指導の実際等

- 自ら「学びの視点」を設定し、教育ボランティア活動に取り組みましょう。特に、キャリアポ「教育ボランティアの記録」を作成する際に、上記の「学びの視点」を参考にして、「教育ボランティア活動を進めるにあたっての決意（目標）」を入力してください。
- 上記に挙げた参考例をもとに「教育ボランティアの記録」を作成し、各項目で自分自身が学んだ見方考え方や、実践して学んだことがらをまとめておくことが、教師力の基礎を高めていくことにつながっていきます。

3 ガイダンス・スタートセミナー・報告会

(1) 教育ボランティアガイダンス

- ・日時と会場 前期：4月16日（水）4限 Y-31・Y-32・Y-33 教室
後期：10月1日（水）4限 N-11・N-12 教室
- ・内容 受入先や教育ボランティア委員会，学生運営委員会からの説明と指導及び提出書類の確認等

※活動希望者は全員出席してください。

※特別な事情で欠席せざるを得ない場合は，教職支援室に相談してください。

(2) 教育ボランティアスタートセミナー

- ・日時 4月9日（水）3限
- ・会場 N-11 教室
- ・内容 教育ボランティア活動体験発表，受入先の先生のお話，グループ協議

※教ボラ初心者の1,2年生向けのセミナーです。

教ボラに対する疑問や不安を解消し、教ボラに対する理解を深めましょう。

(3) 教育ボランティア報告会

- ・日時 12月10日（水）4限
- ・会場 N-11・N-12 教室
- ・内容 教育ボランティア活動体験発表，グループ協議，指導講評

※単位取得希望者は，全員出席です。出席しないと単位取得ができません。

※特別な事情で欠席せざるを得ない場合は，教職支援室に相談してください。

※ガイダンス・スタートセミナー・報告会への出席や参加は，単位取得に必要な時間数のうちの1時間にカウントされます。

- ・受付時の名簿記入によって，出席を確認します。

※(1)～(3)は，いずれも教育ボランティア学生運営委員会によって運営されます。報告会での体験発表については，学生運営委員会から依頼します。依頼されたら，快く引き受けてください。

4 活動を進めるにあたっての留意点

(1) 活動先の選択にあたっては，様々な視点から検討しましょう。

- ・教育ボランティア先で何を学びたいのか。
- ・対象は小学生か中学生か，特別支援を必要とする児童・生徒か。
- ・活動内容は，授業中の支援か，放課後の学習支援か，学校行事等の補助か。
- ・交通手段をどうするのか。
- ・大学内の授業に支障をきたさないか。
- ・平日か，土日等を活用するのか。

(2) 受入先から特別に指示がない限り，教育実習同様，きちんとした服装・頭髪・態度で臨みましょう。

(3) 受入先と訪問日を確認し，絶対に無断欠席をしないようにしましょう。

- ・万が一，訪問できない事情が生じた場合には，事前に受入先担当者に必ず連絡を取ります。

※緊急対応マニュアル参照

3 ガイダンス・スタートセミナー・報告会

(1) 教育ボランティアガイダンス

- ・日時と会場 前期：4月17日（水）4限 M-12・N-11 教室
後期：10月2日（水）4限 N-11・N-12 教室
- ・内容 受入先や教育ボランティア委員会，学生運営委員会からの説明と指導及び提出書類の確認等

※活動希望者は全員出席してください。

※特別な事情で欠席せざるを得ない場合は，教職支援室に相談してください。

(2) 教育ボランティアスタートセミナー

- ・日時 4月10日（水）3限
- ・会場 N-11 教室
- ・内容 教育ボランティア活動体験発表，受入先の先生のお話，グループ協議

※教ボラ初心者の1,2年生向けのセミナーです。

教ボラに対する疑問や不安を解消し、教ボラに対する理解を深めましょう。

(3) 教育ボランティア報告会

- ・日時 12月11日（水）3限
- ・会場 N-11・N-12 教室
- ・内容 教育ボランティア活動体験発表，グループ協議，指導講評

※単位取得希望者は，全員出席です。出席しないと単位取得ができません。

※特別な事情で欠席せざるを得ない場合は，教職支援室に相談してください。

※ガイダンス・スタートセミナー・報告会への出席や参加は，単位取得に必要な時間数のうちの1時間にカウントされます。

- ・受付時の名簿記入によって，出席を確認します。

※(1)～(3)は，いずれも教育ボランティア学生運営委員会によって運営されます。報告会での体験発表については，学生運営委員会から依頼します。依頼されたら，快く引き受けてください。

4 活動を進めるにあたっての留意点

(1) 活動先の選択にあたっては，様々な視点から検討しましょう。

- ・教育ボランティア先で何を学びたいのか。
- ・対象は小学生か中学生か，特別支援を必要とする児童・生徒か。
- ・活動内容は，授業中の支援か，放課後の学習支援か，学校行事等の補助か。
- ・交通手段をどうするのか。
- ・大学内の授業に支障をきたさないか。
- ・平日か，土日等を活用するのか。

(2) 受入先から特別に指示がない限り，教育実習同様，きちんとした服装・頭髪・態度で臨みましょう。

(3) 受入先と訪問日を確認し，絶対に無断欠席をしないようにしましょう。

- ・万が一，訪問できない事情が生じた場合には，事前に受入先担当者に必ず連絡を取ります。

※緊急対応マニュアル参照

(18) 教育ボランティア活動に関する情報収集に心がけましょう。

- ・教育ボランティア活動に関するお知らせは、必要に応じて CNS や学内ポスター、教職支援室からのメールで行います。これらの情報にいつも目を通す習慣を付けてください。

5 社会参加実習の特性と単位取得

(1) 社会参加実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの特性

- ・教育学部学校教育課程共通専門科目（選択）の不定期実習です。
- ・学校教育課程以外の学生は、卒業要件でないその他の単位になります。
- ・活動時間は年度を越えて積算でき、1 年間に 1 単位、4 年間で最大 4 単位まで取得できます。

(2) 単位取得

- ・2 月中旬までに、大学教員による教育ボランティア委員会（単位認定会議）を開き、受入先から提出された活動報告書、各書類の提出状況、報告会への出席状況に基づいて、単位取得について検討がなされます。

活動内容に特に問題がなく、次の3つの要件をすべて満たしているとき、教育ボランティア委員会が 1 単位を認定します。

- ① 45 分間活動した場合を 1 時間とカウントし、30 時間以上（実質活動時間が 22.5 時間以上）の活動で 1 単位とします。
- ② 「キャリポ 教育ボランティアの記録」「活動報告書」の両方を提出します。
- ③ 「報告会」に出席する。

(3) 単位取得にかかわる留意点

- ・ガイダンス、スタートセミナー、報告会への参加はそれぞれ 1 時間とカウントします。
- ・受入先より提出されるボランティア活動報告書の活動時間は、2 月までの活動見込み時間としてカウントされます。3 月は受入先との相談で活動は可能ですが、活動時間にはカウントされません。
- ・単位取得の要件を満たさず、単位として認定されなかった場合、カウントされた時間数は、30 時間を上限として次年度に繰り越すことができます。
繰り越しは次年度までで、それ以降への繰り越しはありません。
- ・単位として認定された場合、30 時間を超えた分の時間数を次年度に繰り越すことはできません。
- ・教育学部大学院生は、「履修申請書」を教育教務に提出します。（その他の単位）
- ・他学部生は、自分の所属学部の教務に「他学部聴講願」を提出します。（その他の単位）
- ・特別支援教育特別専攻科の学生は、規定上単位取得はできませんが、活動は可能です。

6 個人情報の取り扱い

(1) 学生の個人情報に関する大学側の取り扱い

【利用目的】

教育ボランティア活動をするにあたり提供された学生の個人情報は、本人への連絡、緊急時対応のみに利用されます。

【情報の提供】

原則として、外部への情報提供はしません。

受入先へ提供する情報は（学籍番号・氏名・学部・コース・学年・電話番号・活動希望時間）です。また、提供した情報は年度末に破棄するように依頼します。

(2) 活動中に知り得た個人情報の取り扱い

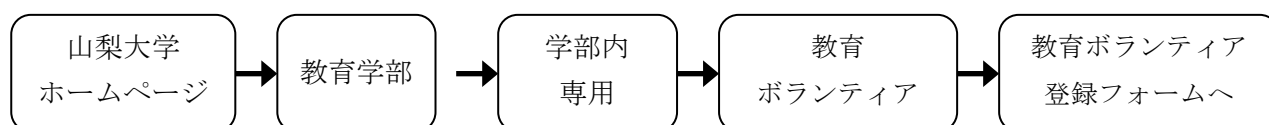
受入先等で、活動中に知り得た個人情報は決して漏らしてはいけません。活動終了後もまた同様です。

7 教育ボランティア活動への申し込み方法について

教育ボランティア活動への申し込みは Web 上から行います。

《手順》

以下の順番でアクセスしてください。



☆「学部内専用」にアクセスするには YINS-SS のログイン画面からログインする必要があります。

☆ガイダンス当日に、CNS の掲示板に登録画面へのリンクも貼ります。

【教育ボランティアに関する問い合わせ先】

☆教育ボランティア専用アドレス kyouikuv@yamanashi.ac.jp

☆教職支援室(L-120) [055-220-8748](tel:055-220-8748)

【教職支援室からのお知らせ】

教育ボランティアに関するお知らせは、CNS の掲示板で行います。

また、学生個人に連絡する場合は、CNS のメッセージで連絡します。

定期的に確認してください。

Web 申し込み
(申請入力画面)

「保険加入確認ならびに指導教員確認書」と
同じ内容になるように入力してください。

教育ボランティア登録申請フォーム

登録内容は社会参加実習に関すること以外の目的では使用しません。
不明な点は教職支援室（L-120）に問い合わせてください。

- ・学籍番号（必須） e2301000
- ・氏名（必須） 山梨 太郎
- ・氏名フリガナ（必須） ヤマナシ タロウ
- ・学部（必須）

入 力 例

●教育学部

○その他の学部（学部・課程・コース等を入力）

◇教育学部の学生のみ、コースを選んでください。

- ・教育ボランティア活動経験（必須）

●有

○無

※携帯電話の番号をお願いします。
半角でハイフンをいれて入力してください。

- ・電話番号（必須） 090-××××-××××

- ・社会参加実習の単位取得希望（必須）

●有

○無

※活動経験のある場合は、過去の取得単位
を確認し、番号にチェックしてください。

- ・社会参加実習の科目番号（1から順に履修してください。）

○1

●2

○3

○4

- ・加入している保険の名称（未加入の場合申請できません。）（必須）

○「学生教育研究災害傷害保険」＋「学研災付帯賠償責任保険」

○「学生教育研究災害傷害保険」＋「学研災付帯学生生活総合保険」

○「学生総合保障制度（こども総合保険）」

●「学生総合共済」＋「学生賠償責任保険」

○その他（名称：

※通年で活動をおすすめしますが
半期のみの活動もできます。

- ・活動期間（必須）

●通年 ○前期のみ ○後期のみ

- ・希望受け入れ団体：（複数チェック可）（必須）

■ ○○市教育委員会

□ △△市教育委員会

□ ○○小学校

■ △△小学校

□ ◇◇中学校

□ ○○団体

※複数で活動する場合、それぞれの場所での活動
時間が分かるように入力してください。

- ・希望活動時間（必須）（例）○○市教委：月曜終日、△△小：火曜午前中 など

- ・補足（例）教育実習期間など自分の活動できない期間や、その他伝えておきたいこと

- ・本学指導教官氏名（必須） ※保険加入ならびに指導教員確認書にサインをもらう先生の名前

送信

教育ボランティア web 申請手続きは完了しました。

◇ 今回の申請について修正やキャンセルがあるときは教職支援室（L-120）にすみやかに申し出てください。

8 保険加入確認ならびに指導教員確認書について (P12 参照)

教育ボランティア活動をする場合も保険加入が義務付けられています。下記の案内は、2025 年度用に新入生を対象に配布された「学生保険について」の資料です。2 年生以上の皆さんもすでに入学時に下記の 4 つの学生保険等に参加されていることと思います。

現在、自分が加入している保険の名称・特色や補償範囲を必ず確認しておきましょう。

例えば…

- ☆ 自転車で活動先に行く途中、通行人にぶつかってケガをさせてしまった。保険金が支払われるのか。支払われるとしたら金額はどの程度か。
- ☆ バイクで活動先に行く途中で、自動車と接触事故をおこし、骨折し通院することになった。保険は支払われるのか。支払われるとしたら、通院した初日からか、金額はどの程度か。
- ☆ 活動中に偶然、子どもたちにケガをさせた、あるいは、自分がケガをしたとき、どの程度の金額が支払われるか。

保険内容がよく分からない場合は、加入先等に直接電話をして確かめましょう。また、「保険加入確認ならびに指導教員確認書」を必ず提出してください。(P12 参照)

学生保険について

【2025 年度用】

山梨大学では入学時に、授業中、課外活動等学生生活における万一の事故及びインターンシップ・教育実習・臨床実習等での不慮の事故により賠償責任が発生した場合などに対応できる「学生保険」への加入を大学の方針としております。

山梨大学で取り扱っている「学生保険」は下記のとおり 4 種類あります。それぞれパンフレットを添付し、ご案内します。それぞれの保険の特色、補償範囲をよく把握してご加入してください。

なお、付帯の「賠償責任保険」にも必ず同時に加入してください。

① 「学生教育研究災害傷害保険」＋「学研災付帯賠償責任保険」

お問い合わせ連絡先：学生支援課 TEL. 055-220-8054・8053

加入方法：「学務関係手続き」時において加入。

② 「学生教育研究災害傷害保険」＋「学研災付帯学生生活総合保険」

お問い合わせ連絡先：学生生活総合保険相談デスク TEL. 0120-811-806

加入方法：まず、「付帯学生生活総合保険」の保険料を振込む。

その後「学務手続き」時において必ず「学生教育研究災害傷害保険」に加入すること。

その際「付帯学生生活総合保険」に加入したと申し出ること。

③ 「学生総合補償制度（こども総合保険）」

お問い合わせ連絡先：文教インシュアランス TEL. 0120-740859・313215

加入方法：保険料の振込みによる加入。「学務手続き」時においても加入可。

④ 「学生総合共済」＋「学生賠償責任保険」

お問い合わせ連絡先：山梨大学生生活協同組合 TEL. 055-252-4757

加入方法：保険料の振込みによる加入。「学務手続き」時においても加入可。

◎学生保険全体に関しては教学支援部学生支援課に相談してください。

担当：山梨大学共学支援部学生支援課
保険担当 055-220-8054・8053

保険加入確認ならびに指導教員確認書

学籍番号：	氏名：
所属コース：	
希望受入先： (例) ○○小学校, ●●中学校	
単位取得希望： 有 ・ 無	授業科目名：社会参加実習 (I ・ II ・ III ・ IV)

どちらかに○を付けてください。

I から順に取得してください。

【学生保険加入確認ならびに指導教員確認書の手続きについて】

- (1) 下記の表の中から現在加入している保険の□にチェックする。
- (2) 新規に申し込む教育学部生と、教育学部以外の学生（大学院生、他学部生、科目履修生等）は、その保険に加入していることが証明できる書類のコピーを用意する。
・1～4については〔 〕内に示したもの、5については内容の分かるものを添付する。
- (3) 自動車・バイクの任意保険確認欄にチェックをする。
- (4) 指導教員のサインと認印をもらう。
- (5) 教職支援室 L120 へ提出する。 (2)の該当者は保険加入の証明書のコピーを添付すること

保険未加入者は必ず加入してください。加入がなければ活動はできません。

- | | |
|-------------------------------------|-------------|
| 1. □ 「学生教育研究災害傷害保険」+「学研災付帯賠償責任保険」 | 〔保険料分担金領収証〕 |
| 2. □ 「学生教育研究災害傷害保険」+「学研災付帯学生生活総合保険」 | 〔1と同じ〕 |
| 3. □ 「学生総合補償制度(こども総合保険)」 | 〔加入者証〕 |
| 4. □ 「学生総合共済」+「学生賠償責任保険」 | 〔証書〕 |
| 5. □ その他 | |
| (名称： |) |

賠償責任のある保険への加入をお願いします

【自動車・バイクの任意保険確認欄】

教育ボランティア活動へ行く際に自動車やバイクを使用する場合は、任意保険への加入が必要です。

以下にチェックをお願いします。 **加入が無い場合は自動車・バイクの使用はできません。**

- ・自動車：□加入している □加入していない □使わない
・バイク：□加入している □加入していない □使わない

【大学の所属コース等の指導教員確認欄】

上記について確認しましたのでボランティア活動への参加を認めます。

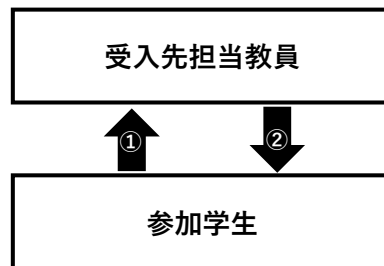
指導教員名 _____ (印)

※不明な点は教職支援室に相談してください。

9 緊急対応マニュアル

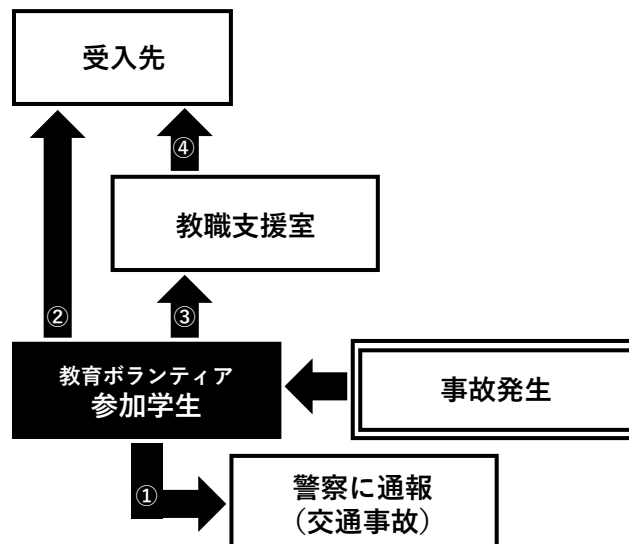
【体調不良等で欠席する場合】

- ①欠席する事情が生じたときは、速やかに受入先の担当教員に連絡する。
※担当教員が不在の場合は「欠席」の伝言を依頼する。
- ②必要に応じて、代替日等について日程調整の連絡をする。



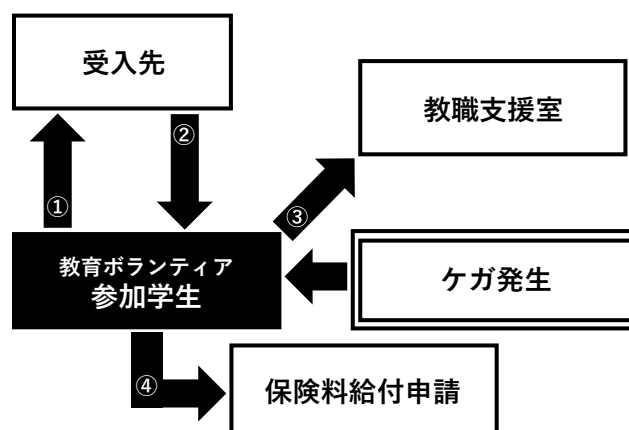
【受入先への移動中に交通事故等の緊急事態が発生した場合】

- ①交通事故の場合は、軽度の人身事故、物損事故であっても必ず警察に通報し対処する。
- ②連絡可能であれば、受入先に直ちに連絡する。
※すぐに連絡することができなかった場合は、可能になった時点で速やかに連絡する。
- ③教職支援室に報告する。
- ④教職支援室からも受入先に連絡する。



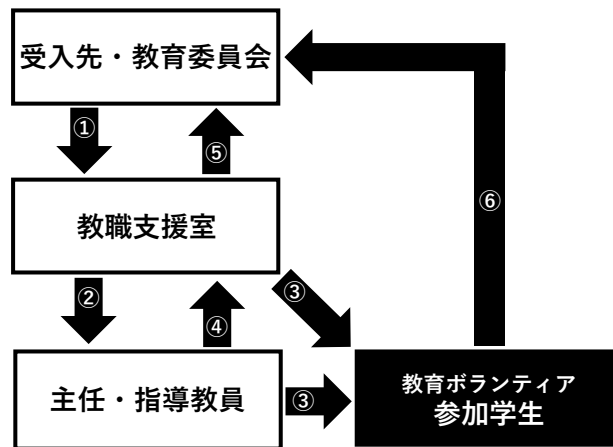
【ボランティア活動中に子どもにケガを負わせたり、自分がケガや体調不良になった場合】

- ①受入先の担当教員に直ちに報告する。
- ②担当教員の指示を受けて対応する。
- ③教職支援室に事後報告を必ず行う。
- ④必要に応じて、保険料給付申請を行う。



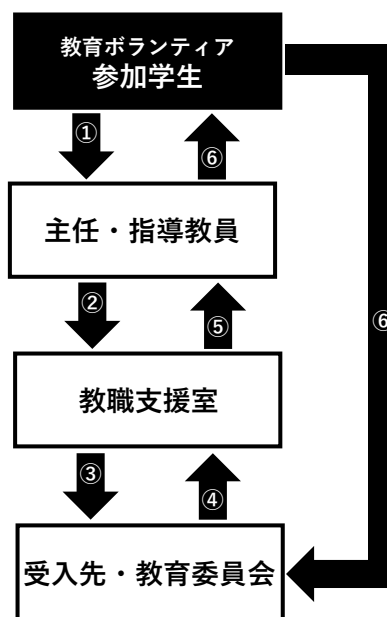
【無断欠席をした場合】

- ①受入先または教育委員会から教職支援室に連絡がくる。
- ②教職支援室から講座主任及び指導教員（学生保険加入確認書に署名した教員）に状況を連絡する。
- ③講座主任または指導教員が学生と面談して指導するとともに、今後の対応を決定する。
※状況によっては、教育ボランティア指導員も面談して指導する。
- ④主任・指導教員から教職支援室に報告する。
- ⑤教職支援室から受入先または教育委員会に指導の状況と今後の対応を報告する。
- ⑥学生が受入先や教育委員会に直接謝罪する。



【やむをえない事情で活動を辞退する場合】

- ①学生が辞退する事情を講座主任または指導教員（学生保険加入確認書に署名した教員）に事情を説明する。
- ②講座主任または指導教員は、やむをえないと判断した場合、教職支援室に連絡する。
- ③教職支援室は、受入先・教育委員会に連絡する。
- ④受入先・教育委員会から承諾を得る。
- ⑤教職支援室は、講座主任または指導教員に承諾されたことを連絡する。
- ⑥講座主任または指導教員は、学生に承諾されたことを連絡する。
- ⑦学生は、受入先・教育委員会に直接連絡する。



教育ボランティア活動にかかわって、緊急に対応が必要な事態が発生した場合は、自分で勝手に判断するのではなく、マニュアルにしたがって行動してください。

令和6年度教育ボランティア活動を振り返って

1 教育ボランティアガイダンスについて

○前期ガイダンス

令和6年4月17日（水）（155名参加） N-11 教室・N-12 教室

受入機関ガイダンス参加数 19 機関

○後期ガイダンス

令和6年10月2日（水）（79名参加） M-11 教室・M-12 教室

受入機関ガイダンス参加数 15 機関

2 教育ボランティアスタートセミナー・報告会について

○教育ボランティアスタートセミナー ※教育ボランティアを初めて行う学生向け

令和6年4月10日（水）（90名参加） N-11 教室

- ・受入先の先生のお話 竜王小学校 久保田 勲教頭
- ・グループ協議「教育ボランティア経験者に聞いてみよう」

○教育ボランティア報告会 令和6年12月11日（水）（78名参加） N-11・N-12 教室

- ・ボランティア体験発表 小池 翔瑠さん（言語教育コース4年）
- ・グループ協議「教育ボランティアで学んだこと」

3 令和6年度教育ボランティアの活動実績（登録人数） （☆印 新規受入先）

1	甲府市教育委員会＊	47人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
2	南アルプス市教育委員会＊	13人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
3	甲斐市教育委員会＊	9人	中学生対象自学講座，授業中の指導補助等
4	中央市教育委員会＊	4人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
5	昭和町教育委員会＊	9人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
6	韮崎市教育委員会＊	9人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
7	北杜市教育委員会＊	1人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
8	甲州市教育委員会＊☆	1人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
9	笛吹市教育委員会＊	10人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
10	市川三郷町教育委員会＊	2人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
11	富士川町教育委員会＊	6人	自習支援講座そよ風教室，授業中の指導補助
12	富士河口湖教育委員会	3人	長期休業中の学習応援教室
13	山梨県教育庁高校教育課☆	1人	総合的な探求の時間における生徒への支援
14	山梨市立山梨小学校	4人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
15	山梨市立日川小学校	0人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
16	私立駿台甲府小学校	2人	放課後の学習支援補助，学童保育の支援
17	私立駿台甲府中学校	6人	放課後の学習支援補助，部活動の支援等
18	北杜市立甲陵高等学校	0人	放課後の学習支援，生徒への進路アドバイス
19	児童養護施設明生学園	7人	小・中学生への個別の学習支援
20	中央児童相談所	0人	一時保護児童の学習支援，余暇活動支援等
21	山梨県立科学館	1人	実験工作教室の補助・コミュニケーション等

22	本学附属小学校	23 人	授業中の指導補助，学校行事の支援等
23	本学附属中学校	11 人	放課後の部活動の支援
24	本学附属幼稚園	1 人	保育における観察・記録，園行事の補助等
25	本学図書館附属子ども図書室	9 人	図書室運営，読み聞かせ等
合計		179 人	

＊甲府市教委（21 校）＝新紺屋小，朝日小，里垣小，相川小，貢川小，千塚小，池田小，北新小，千代田小，玉諸小，山城小，大里小，舞鶴小，中道北小，西中，南中，北中，北東中，北西中，城南中，あすなろ学級

＊南アルプス市教委（7 校）＝若草小，若草南小，豊小，南湖小，白根巨摩中，若草中，櫛形中

＊甲斐市教委（4 校）＝竜王小，敷島小，竜王北中，自学講座

＊中央市教委（3 校）＝三村小，田富小，田富中

＊昭和町教委（4 校）＝押原小，西条小，常永小，ほたる学舎

＊韮崎市教委（4 校）＝韮崎小，韮崎北西小，かがやき教室，ミアキス

＊北杜市教委（1 校）＝泉小

＊甲州市教委（1 校）＝塩山北小

＊笛吹市教委（8 校）＝一宮北小，八代小，境川小，春日居小，石和中，放課後子ども教室

＊市川三郷町教委（2 校）＝上野小，市川小

＊富士川町教委（3 校）＝増穂小，増穂中，自学支援講座そよ風教室

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
①のべ申込人数	216	257	263	225	259	151	224	226	171	179
②のべ活動者数	179	209	228	191	211	112	192	202	148	167
③活動申込人数	153	184	199	169	190	132	185	182	147	154
④活動者数	147	163	189	164	171	104	168	176	135	147
⑤受入先数	67	66	67	76	69	51	60	78	72	70
⑥単位取得者数	61	73	91	59	91	64	67	87	63	72

（令和 7 年 2 月 5 日作成）

参 考 教育ボランティア実績の推移

①・②…複数の受入先で活動をしている学生をそれぞれカウントした人数。延べ人数

③・④…実人数

②・④…実際に活動を行った人数。申込しただけで活動時間ゼロの学生や、ガイダンス参加のみの学生は含まない。

⑤…実際に派遣された受入先の数。市教委・町教委は派遣された受入先の数でカウント。

4 令和6年度教育ボランティア活動アンケート調査結果

教育ボランティア活動に対する学生と受入先の考えを把握し、今後の運営改善を図るために、令和6年12月に実施したアンケート調査の概要を以下に示します。調査対象は、令和6年度に教育ボランティア活動を行った学生・院生と受入機関(学校等)で、回答数は、学生71人、受入先34カ所です。

【学生・院生対象】

1 教育ボランティア活動開始時点での教育実習経験の有無

(1)経験していた 15人(21.1%) (2) 経験していなかった 56人(78.8%)

(1)の内、教育実習に行った経験から、教育ボランティアをしたいと考えた者 7人

(2)の内、教育実習に行く前に教育ボランティアで教育現場の様子を知りたかった者 52人

2 教育ボランティア活動をする決めたときに考えたこと(動機にかかわるもの)

	大いに考えた	少しは考えた	あまり考えなかった	まったく考えなかった
将来、教職を希望しており、その役に立つ	57	12	2	0
教員採用試験に有利になる	34	24	12	1
子どもに教えるという経験をしたい	51	18	2	0
子どもと接することが好きだから、したい	57	11	3	0
内容はともかく、何かボランティアをしたい	12	26	25	8
時間をもてあましていたので、何かしたい	4	17	25	25
社会参加実習の単位を取得したい	21	30	18	2

「将来、教職を希望しており、その役に立つ」「子どもと接することが好きだからしたい」など、前向きに教職を考える学生の割合が今年度も高くなっています。また、その他に考えたこととして、「教育実習前に教育現場を見てみたい」「自分が児童生徒の頃と現在との違いを知りたい」「経験を積みたい」「子どもの現状を知りたい」との声がありました。教員としての資質の向上のため、教育ボランティア活動を選んだ積極的姿勢が見てとれます。

3 活動内容

○学校における授業中の活動… 56人参加(78.8%)《昨年77.9%》

例：授業での指導補助(TT指導など)、特別支援教育補助

○学校における授業以外の活動… 33人参加(46.4%)《昨年53.7%》

例：放課後の学習指導補助、部活動指導補助、学校行事の補助

○学校以外での活動… 12人参加(16.9%)《昨年22.0%》

例：中学生対象の自学講座、子ども図書室運営

※今年度も「学校における授業中の活動」が大きい割合を占め、多くの学生が授業を中心に支援・補助を行っています。

4 教育ボランティア活動の教育的価値（選択技法）

<回答率が多かった選択肢を挙げます。>

○様々な個性をもった子どもの存在と、それへ対応することの必要性和難しさに気づくことができる。（74.6%）

○教育実習とは異なり、評価を伴わずに、ゆとりをもって定期的に子どもと触れ合うことができるので、教育現場や子どもの実態をよりよく把握できる。（73.2%）

○子どもの生活行動面の実態、考えていた子ども像とのギャップなど、生の姿を理解できる。（70.4%）

○教育実習の前に活動を行うことで、教育実習に向かう心構えができる。（63.3%）

○子どもとの良好な信頼関係を築くことの大切さに気付くことができる。（60.5%）

※実際の教育現場にかかわる中で子どもの実態を捉え、指導の困難さや重要性に気づき、現場の教員や子どもから多くを学んでいる姿が伺えます。

5 教育ボランティア活動を通して感じた「教職に就くにあたっての課題」（自由回答法）主なもの

- ・児童生徒への声かけの仕方（褒め方・叱り方・注意の仕方・やる気の出させ方）

- ・積極的なコミュニケーション

（子どもとのコミュニケーション、先生方とのコミュニケーション）

- ・児童生徒への接し方・距離感

（適切な接し方、距離が近すぎて友達になってしまうこと、教師としての毅然とした態度をとりながらも悩みを相談できる存在となるにはどうすればよいか。子どものペースで良いと待つ姿勢と成長につなげるための厳しい態度との兼ね合い、どこまで子どもの主体性に任せるかなど）

- ・トラブルの対応の仕方（両方の子どもの状況を客観視して判断すること）

- ・児童生徒理解（様々な子どもの実態を理解すること、低学年～高学年へと成長していく中での変化）

- ・個に応じた対応と全体への対応（特別な支援を必要とする児童生徒とクラス全体との授業の進め方）

- ・話す力（分かりやすい、聞き取りやすい、要点をまとめた話し方）

- ・指導法・指導力・指導観

（授業の仕方、子どもが集中して取り組める授業構成、自分の受けてきた教育法にとらわれがち）

- ・教科の知識理解（専門性）

- ・教育現場の理想と現実（良い面と大変な面の両方を実感しギャップをなくす。多忙さの中で自分の目指す指導ができるのかというジレンマ）

- ・経験・自信

※以上のような意見がありました。

6 継続参加希望

○参加したい 59 人 ○参加したくない 1 人 ○その他(卒業などで機会がない等) 8 人

※大多数の学生が継続参加を希望しています。この傾向はここ数年変わっていません。

7 教育ボランティア活動をよりよいものにしていくための改善点や要望（自由回答法）

- ・ガイダンスで、複数人からの経験談を聞く機会を設ける。
- ・キャリポが開かないことがあり、出欠ボタンが押せないことがあったので改善するとよい。

【受入機関（学校等）対象】

(1) 教育ボランティア活動の受入機関（学校等）にとっての教育的価値（選択肢法）

回答率が高かった選択肢を挙げます。

- ① 教職員以外の大人と触れ合う機会がもてる。担任とは違った存在として関わることの効果が期待できる。（79.4%）
- ② 個別指導など個に応じたきめ細かい指導が可能となる。習熟度別指導や小グループ指導など指導形態の多様化が図れる。（76.4%）
- ③ 教育現場における人員不足が解消できる。（73.5%）
- ④ 教職員よりも年齢が近いことによって、上下関係でない関わりが持てたり、若さによる情熱ある指導ができたりする。（64.7%）
- ⑤ 学生の熱意や頑張りで活動が活性化する。（61.7%）

(2) 教育ボランティア活動の学生にとっての教育的価値（選択肢法）

回答率が高かった選択肢を挙げます。

- ① 子どもの生活行動面の実態、考えていた子ども像とのギャップなど、生の姿を理解できる。（79.4%）
- ② 様々な個性をもった子どもの存在と、それへ対応することの必要性和難しさに気づくことができる。（79.4%）
- ③ 教師の子どもへの対応の仕方を見て、子どもとの接し方や、コミュニケーションをとることの重要性を理解できる。（76.4%）
- ④ 子どもへの言葉のかけ方、褒め方・叱り方の難しさや大切さなど、子どもに対する言語的なかわりの重要性が理解できる。（71.8%）
- ⑤ 教師としての自分の将来像を描くことができたり、教師になるという意志をより強く固めることができたりする。（70.5%）

(3) 教育ボランティア活動の「受入機関（学校等）」についての教育的価値について（自由回答法）

- ・学習支援など担任以外からもサポートしていただけることはとてもありがたい。
- ・町教育委員会の施策として、町費負担教員、支援員とOB教員が長期休業中の学習応援教室で指導を受け持っている。OB教員が小学校の先生だったので、中学生の教科指導ができる人が限られている。なので、大学生に来ていただけることは大変有り難く助かっている。
- ・私立学校を経験していただくことで、将来、教職に就く際に、公立学校だけではなく、私学も選択の一つとなる可能性が広がる。

(4) 教育ボランティア活動の「学生」についての教育的価値について（自由回答法）

- ・様々な教育現場を体験することで、「教師」としてではなく、多角的な方面から「教育」にアプローチすることができる。

(5) 教育ボランティア活動をする学生に期待すること（自由回答法）

教育ボランティア学生に対する感謝とともに以下のコメントがありました。

- ・教師としての使命感や情熱、子どもへの真っ直ぐな愛情を持ち続けてほしい。
- ・学校現場で働く多くの教職員から、教師として必要な資質や能力を学んでほしい。
- ・目的意識をもち活動に取り組み、現場での経験を将来に活かしてほしい。
- ・周りから信頼される人間であってほしい。
- ・社会人としての最低限のマナーを守って活動してほしい。
- ・教員になる前に、学校現場を体験することで、将来の姿をよりはっきりとイメージできる。自分の得意な分野を発揮する姿を生徒に見せることが、生徒に熱中することの良さや、憧れを抱かせることにつながる。積極的に参加してほしい。
- ・将来の教職を目指していく上での道しるべとして本活動を活用してほしい。実習を通して、児童との関わりや学習指導の場面で様々なことを体験し、自分を磨き、さらに成長していつてほしい。
- ・ぜひ、山梨県で教師になってほしい。
- ・児童・生徒に対して、また教職員に対してのコミュニケーション能力を磨いてほしい。
- ・明るく元気に、自分の良さをアピールして頑張してほしい。
- ・中学生、教育ボランティア学生が、互いに学び合えるよう、教職員もサポートしていきたい。
- ・実践的な活動を通して児童の実態を知り、様々な場面での児童とのかかわり方を学んでほしい。また、現場の教師の姿を見て、大変なところも見えるだろうが、教育に対する熱意や子供たちを大切にする気持ち、子供の成長を感じることでできる幸せなど、教師としてのやりがいを見つけてほしい。
- ・ボランティア活動を通して、社会人に必要なスキル（報告・連絡・相談・判断等）も学んでほしい。また、子どもたちのために何ができるのかという視点を大切にしてほしい。
- ・学校現場の人手不足を補うための学習支援を多くの学生さんに来てもらいサポートをいただきたい。

- ・子どもたちのことが大好きで、一緒に勉強したり、話をしたりと、明るく笑顔で寄り添ってくれる学生は大歓迎。言葉や礼儀も大切にしてほしい。職員とも積極的にコミュニケーションをとり、互いの気持ちを共有しながら、よりよい支援の在り方をさぐってほしい。
- ・少しでも、教師という仕事に興味を持っている学生なら、ぜひ気軽に参加してほしい。
- ・あまり構えずに、気軽に、来られるときにボランティアとして来校してほしい。
- ・児童への積極的な個別支援や個別対応を期待する。
- ・対応に苦慮する児童も増えているため、たくさん目のサポートできることはありがたい。
- ・学校に登校することが難しい児童・生徒との関わりを通して、個々への言葉かけ、寄り添い方、指導法など支援の方法について理解を深め、今後の活動に生かしてほしい。
- ・若い力を生かして、積極的に参加してもらえると学校でも大いに助かる。
- ・学校の多忙さ大きく取り上げられているが、教師という仕事のやりがい、素晴らしさは数えきれないほどある。教育ボランティアを通して、教師という仕事の素晴らしさを実感してほしい。
- ・学校現場で子どもたちと学習や生活を共にし、子どもたちの成長や教員としてのやりがいを感じることと、ぜひ教職をめざしてほしい。子どもたちや教職員にとっても良い刺激となるので、今後も熱意をもった学生さんの活動を期待している。
- ・比較的年齢が近いことで、子どもたちが親しみをもちながら若い情熱ある姿に接することで、学校の活性化につながることを期待している。教員にとっても自身が教職を目指したころを振り返り、新たな刺激になることと思う。
- ・教師の大変さを理解しつつ、教師になることをぜひ目指してほしい。
- ・教職への志を高くもち、様々な経験を積み、学習に励んでほしい。
- ・子どもたちはもちろん、教職員に接することで、様々な経験を積んで、素敵な教員になってほしい。
- ・活動を通じ、教えることの楽しさや難しさ等を実感してもらい、今後に活かしてほしい。
- ・教員が減る中で、このような活動から教員を目指す学生が増えていくと思う。また、学生のうちに関わることで、実際教員になってから役に立つと思う。地元の学生が地元の子どもたちのために教員になって一緒に働いてくれることを願う。教員としてのやりがいが、たくさんあることに気がついてほしい。子どもたちの成長を生で感じて一緒に学び、感動できる。そんな職場はないと思う。
- ・多様化する子どもたちに直に接することで、魅力も大変さも味わってもらえるとよい。学生として学んだり楽しんだりしながら、子どもに寄り添って一緒に楽しめる姿勢を期待する。
- ・授業等での活動の場合は、大学生が学問を学ぶ視点に触れながら接してほしい。
- ・担当の教師の意図をくみ取り、生徒が前向きに活動できるような声かけをお願いしたい。
- ・児童養護施設に入所している児童の家庭環境は、児童によって違い複雑だ。児童に関わることで苦慮すること多いとは思いますが、勉強になると思って学園に来てほしい。
- ・教職を目指している学生が、実際の教育現場に携わることができるので、様々な生徒に声をかけ、様々な生徒がいることを理解し、様々な対応の仕方があることを学んでほしい。
- ・現場についていろいろなことを知ってほしい。実務経験から多くを学ぼうという姿勢をもってほしい。

5 学生運営委員会の活動

学生運営委員会は、学生が教育ボランティア活動を自主的に運営することを目的に、平成 22 年度から組織されました。活動内容としては、教育ボランティアガイダンス・教育ボランティアスタートセミナー・教育ボランティア報告会の企画・運営、そして教育ボランティアガイダンスブックの編集を行っています。教育ボランティアの活動の内容を発信し、多くの人に周知してもらうとともに、教育ボランティアを実際に行っている方へのサポートを目標として活動を行っています。

教育ボランティア活動だけでなく教育ボランティア学生運営委員会に参加することで、別の視点から教育ボランティア活動を考えることができます。また、組織の中で大きな行事を企画し、最後までやり遂げるということは大学生活の中で貴重な体験として自分の財産になると思います。

6 受入先訪問

令和 6 年度は、大学教員からなる教育ボランティア委員会の委員が、受入先関係機関を訪問しました。7 月に韮崎市立韮崎北西小学校、12 月に甲府市立西中学校を訪問しました。詳細については教育ボランティアニュースをご覧ください。

自分自身に矢印を「向ける」「向けさせる」

言語教育コース 4年 小池 翔瑠

このボランティア活動を通じて、私は一つの大きな学びを得た。それは、「自分に矢印を向けるだけでは子どもを育てることはできない」ということだ。教育ボランティアを通じ、指導力や資質を向上させたいと考えていた私は、「自分に矢印を向ける」という姿勢を意識していた。試合で負けた際、選手のミスに原因を求めるのではなく、失点や敗北のたびに「自分が練習中にできた指導は何だったのか」「より良いトレーニングメニューは考えられなかったか」と問いかけ、自分の課題と改善点を探り続けた。その結果、指導力やトレーニングの設計力が向上したと感じている。

しかしこの取り組みの中で、子どもたちの成長が十分に感じられないという問題に気づいた。その原因は、私が「自分事」として捉えすぎた結果、子どもたちに気づきを与えたり、考えたりする機会を減らしてしまったことにあった。例えば、試合の課題や練習で意識すべきポイントは本来子どもたちが考えるべきである。しかし、私はそのほとんどを代わりに行ってしまった。練習中に「どうすればよかったと思うか」と問いかけても、「えっと…しっかりやる」のように具体的な答えが出ない場面も多く、これは振り返りや課題解決の経験が不足していたことが原因だったのだろう。

子どもたちの成長を促すためには、彼ら自身が過去を振り返り、改善策を考える経験を積む必要がある。そのためには、指導者が問題点を明確に伝え、考えさせる問いかけを行い、自ら成長する環境を整える支援が必要だ。この経験を通じ、「自分に矢印を向けること」の重要性に加え、「相手にも矢印を向けさせる支援」の重要性を学んだ。今後は高校教師として自分の成長を目指しつつ、子どもたちが自身と向き合い成長できるよう、適切なサポートを行っていきたい。

教育ボランティア活動を通して

生活社会教育コース 4年 田中 和実

今年度も、1年次から引き続き甲府市立新紺屋小学校で1年間活動させていただきました。学年は2年生の学級に入り、毎週元気いっぱいの児童たちと中休み時間と3・4校時を過ごしています。4年生となり、教員採用試験の勉強を行いながらの活動となり、これまで以上に、支援する学生としてだけではなく、自分自身が教員となった時をイメージするようになりました。また、昨年度も2年生の学級で活動していましたが、同じ学年でも、担任の先生やクラスの人数が異なることで、学級の困りごと等も大きく変わるのだと感じました。昨年度も今年度も生活科に入ることが多かったので、同じ授業内容でも、授業の導入や活動の行い方の違いを見ることが出来、とても大きな学びになりました。

1年間の教育ボランティア活動を通して、特に印象に残っているのが、特性をもつ児童との関わりです。4年間教育ボランティア活動を行ってきましたが、今まではあまり特性を持つ児童との関わりが無いため、関わり方や声のかけ方に悩む場面がありました。他のことに興味が向いてしまい、今の活動に取り組むことが出来ないときに、「今みんなで〇〇をしているから、一緒にやろうよ」のように声をかけても、反応してもらえないことが多くありました。その時は、活動に戻るように声かけをすることに意識が向いていましたが、その児童が活動に興味や意欲を持てるような声かけが必要だと感じるようになりました。例えば、「〇〇くんのお気に入りのえんぴつを見せてほしいから一緒に席戻ろうよ」のように、児童の好きなものに関連するよう意識したことで、「このえんぴつが一番お気に入りだからこれで書きたい」のように反応してもらえるようになりました。この経験から、特性を持つ児童に関わらず、児童が何に困っているか理解し、気持ちに寄り添った支援が大切であると感じました。今後も担任の先生や支援の先生の関わり方をよく見て学び、よりよい支援を行っていきたいと考えています。

教育ボランティアの活動を通して

障害児教育コース 3年 志村 那祐花

私は昨年に引き続き、今回も小学校の教育ボランティアに参加し、主に特別支援学級に在籍する児童の授業補助や、学級に入ることが難しい児童の支援などを行いました。そして、活動を通し、特別な支援を必要とする児童とのかかわり方や、一人ひとりに合った指導・支援が行われているという学校現場の実態を学びました。特に印象に残っているのは、特別支援学級に在籍する児童の通級の授業における授業補助での出来事です。その児童は、授業中ずっと絵を描いていたのですが、担任の先生は特にそれを注意することではなく、私は不思議に感じていました。しかし、後に支援学級の先生から話を聞いてみると、本人なりの気持ちの落ち着かせ方ということで、担任の先生との共通認識のもと認めていることや、本人も絵を描きながら話は聞いていることなどを教えていただきました。この児童の他にも、別室で Zoom を使って授業を受ける児童や廊下から授業を受ける児童など、児童の実態に合わせて様々な支援方法が取り入れられていました。何度も教育ボランティアに参加するたびに、先生方が支援について試行錯誤を重ねていることが分かり、私もその現場の様子を見ることができて、将来への学びとなったと感じています。また、授業補助を担当した児童とは、休み時間などに児童の好きなものなどの話をしたり、児童の遊びと一緒に参加したりすることを意識していました。そして、児童に対して関心を示していくことを通し、会うたびに児童から熱心に話してくれるようになるなど、児童との距離感が縮まることを実感しました。特に、普段なら投げ出してしまう苦手な勉強も「教える」のではなく「一緒に考える」ような姿勢で取り組んだところ、普段以上の量を児童が自主的に行ってくれたことや、児童から「明日も来てほしい」「来週も一緒に絵を描きたい」と言われたことなど、児童との信頼関係が築けたからこそその反応も見ることができ、教職のやりがいを感じられる経験を得ることができました。

子どもたちとの関わりを通して学んだこと

生活社会教育コース 3年 森 陽希

私は、駿台甲府小学校において学童支援のボランティア活動を行った。私は、1年生から3年生までの児童と一緒に過ごすことが多く、宿題のサポートや工作・折り紙をしている際の見守りなどを中心に子どもたちと一緒に過ごした。この教育ボランティア活動を通して、学んだことは2つある。

1つ目は、言葉によらないコミュニケーションの大切さである。このボランティア活動を通して、私の想像以上に子どもたちは表情を観察していることに気付かされた。ある児童がお手紙を書いてくれた際に、私はスムーズに内容が読み取れず、悩みながら読んでいると「嬉しくないの？」と言われてしまったことがあった。改めて考えると「なんて書いたのか読んでみて欲しいな」等の声掛けをして、積極的にコミュニケーションをとることができる機会でもあった。そのため、子どもたちと関わる機会を大切にすると同時に、子どもたちは私たちの表情や反応をよく見ているため、非言語コミュニケーションも意識していくことが大切だと考えた。

2つ目は、子どもたちの多様な「学び方」である。1年生は、時間を測って計算問題を解く宿題があり、隣同士で競い合う児童だったり、1人で集中できる環境で取り組みたいという児童だったり、同じ宿題でも方法は様々であった。また、百人一首を覚える宿題をしていた児童は、1つ1つノートに手書きをして暗記しようとしていた。それを見た友人が「暗唱しながらの方が良いよ」とアドバイスをし、他の児童も「私は～やっているよ」と様々な意見が飛び交っていた。そして、全員が自分の意見を押し付けるのではなく、認め合っている様子であった。その様子を見て、教員として自分が望ましいと思う方法を児童に押し付けるのではなく、様々な提案をしながら、1人1人の児童に最適な方法を見つけるように支援していくことが大切だと学んだ。

生徒の多様性

山梨県小学校教員養成特別教育プログラム 3年 山本 航世

山梨県でも不登校児童生徒の数が年々増加し、今年度の報告数は過去最多となった。甲府市内の中学校では教室に通えない生徒のために「ほっとルーム」という部屋を学校内に設けて通えるようにしている。今年度は年間を通して「ほっとルーム」での活動であった。

教室に行けなくなった理由は生徒それぞれであり、ほっとルームに来る頻度もまちまちであったが、その中でも学校に通うことには肯定的な生徒がほとんどである。悩みは多岐にわたるが、それでもほっとルームでは友達同士で楽しそうに話し、居場所となっているのだと感じた。先生の生徒へのサポートとしても、勉強ややらなければならないことを強要することなく、生徒のペースに合わせて活動を進めている様子であった。

ほっとルームでは今年度、市や学校の予算で様々な活動ができるものを購入した。カードゲームやボードゲームなど頭を使うものや、けん玉など生徒が技の習得に熱中するようなものが用意された。生徒が楽しく通えるように環境の整備が進んでいると感じた。

そして何よりもうれしかったのが、先生方や生徒から次にいつ来るのかを聞かれたり、行ったら「待ってたよ」といった声をかけてもらったりしたことだ。活動の邪魔や先生方の負担になっていたかもしれないが、生徒と継続的に直接関わって、生徒1人ひとりの考え方や感じ方を知ることができた。

今年度はほとんどの学校行事にもボランティアとして行くことができた。学校の中で生徒から「出るから見てね」などと声を掛けられ、行事ごとに成長していく様子が見られた。頑張っている様子が見られた生徒には積極的に声をかけ、良かった点を伝えてあげると、とてもうれしそうにしてくれた。

来年度最後の年となるが、活動を継続して、私自身も4年間の学びを締めくくれるようにしたい。

教育ボランティアを通して得たこと

障害児教育コース 2年 小林 実々

私は前期に貢川小学校で教育ボランティアとして週に1回、丸1日学習や生活の支援にあたった。通常学級、特別支援学級両方の授業の様子を見させていただいたこと、異なる学年のクラスに入らせていただいたことで、児童の発達段階の違いや先生方の授業の工夫や発問の難易度、支援の違いを直接見て学ぶことができ貴重な経験をすることができた。教育ボランティアを通して成長でき、これから教員を目指す上での自信に繋がったと感じる。実際の現場では特性は多様であり、個別具体的な対応が求められることを実感した。主に通級による指導を受ける2名の児童が通常学級で授業を受ける際の学習支援を行った。授業中、他の友達の動きに注目したり、外の景色を見たりと注意が散漫になっている児童に対して「黒板に書いてあること写そう、一緒に解いてみよう」と声をかけたが、反応が得られず聞き入れられない状況だった。ここで注意が散漫する性格に原因を求めるのではなく、その理由に着目することが重要だと考えた。具体的には筆記用具を必要最低限の鉛筆だけにし、消しゴムや定規は必要な時だけ出すようにした。また、座席が一番後ろであったため黒板に注目する中で自分と黒板の間に広がる多くの情報に注意が行ってしまっていると考え、黒板の内容を手元の紙に写してそれをノートに書いてもらう方法を取り入れた。先生の言葉を短く噛み砕いて伝え、教科書を読む際には指を指して注意を向けるようにするなど工夫し、45分間座って一緒に授業を受けられた時は本当に嬉しかった。この経験は私にとって新たな視点を得られたことであり、視野が広がったように思う。児童の性格や特性だけに注目するのではなく、本人を取り巻く環境や行動の要因に働きかけることの重要性を理解した。今回学んだことや経験は実習や教員になった際の自分の背中を押すようなものであり、有意義な時間を過ごすことができた。

2年目の教育ボランティアにおける児童と自分の成長

山梨県小学校教員養成特別教育プログラム 2年 井出 柚羽

2年目となる教育ボランティアは昨年に引き続き、韮崎小学校および異なる校種での活動にも興味があったため駿台甲府中学校で活動することにした。両校においても特定の学年・学級につくことなく全学年の授業補助(中学校は専門の英語)を行い、大学の授業で触れる話題や出来事ばかりで、刺激的な活動だった。

昨年からの継続校での活動は、担当していた学年の児童たちがどのように成長しているのかという点と私自身の成長した姿をお見せしたいという点において非常に期待していた。心を躍らせながら向かった職員室での挨拶は先生方が笑顔で迎えてくださり安心した。児童たちも私のことを覚えてくれていたり、一緒に遊ぼうと誘ってくれたり昨年と変わらずあたたかい活動場所だった。今年度は特定の学級に限ることなく、全学年の授業に参加させていただくことができ、当然のことながら学年による発達段階の違いや言葉の獲得などに応じたかわり方の重要性というものを改めて実感した。教員のたった一言がクラス全員を変えることができるため、教員がもたらす影響力は大きいと感じた。また、中学校での活動は英語の授業に参加させていただいたのだが、「ここを教えてください」など生徒からの質問に緊張しながら答えたり、外国人教員との連携の難しさを感じたりと慣れないことが多すぎるため、ちゃんとした知識をつけることで自信をもって先生と生徒に対して真剣に向き合っていきたいと思った。

活動へ向かうと「先生、おはようございます」「今日はどこ?」「中休み一緒に遊ぼう」と必ず声をかけてくれる児童がいたり、「先生、ありがとうございます」と伝えてくれる先生がいたりそれらが私の活動意欲を駆り立てる原動力になっている。今年度の残り少ない活動においてもたくさんのことを学んで吸収し、来年度の教育実習および教員採用試験にいかしたい。

部活って青春

科学教育コース 2年 浦濱 佳代

私は今年度の教育ボランティアで母校の中学校で陸上競技部の練習補助に参加させていただいた。私自身、中高等学校で陸上を行ってきたので私の時と今の部活動の違いを生身で痛感することができた。部活動は地域移行が目指されており、母校でも市内の学校で土曜日練習は合同で行われ、参加させていただいた時には、私たちの頃にはないような量より質がある専門的な練習の雰囲気、地域移行による変化を感じた。私は主に土曜日の半日練習に参加し、夏場は専門種目の練習をメインに見てきた。その中で私は自分の専門外の種目への指導に対してとても難しさを感じた。これは部活動全般に問題になっている点と被るが、教師が自分のやってきた部活動以外の顧問を務める時の難しさと似ている部分があると思う。地域移行について、今まで私的には学校から部活動というコミュニケーションの場がなくなることは寂しいことであるという印象があったが、顧問となる教員の負担というものを感じるきっかけとなった。ただそれでも私は今回のボランティアで生徒や顧問の先生と関わってきて、陸上競技にこれからも携わっていきたいと考えた。顧問の先生の視点は生徒側からだけではわかりえないほど、それぞれの生徒をよく理解し向き合っていた。今までは選手側として関わってきたが、これからは教える側として自分の専門以外の種目への知識や経験、教師としての視点を身につけていく必要があると改めて感じ自分の課題を見つけることができた。生徒との会話では「バトン練習を見ていてください」とアドバイスを自ら聞いてくることや「次の大会では〇分を目指しているんだ」など意欲を感じられた場面が多く主体的で自ら考えて行動する場面が回数を重ねるたびに多くなり一年間で競技面の成長だけでなく、精神面の成長も感じることもできた。直向きに頑張る生徒とそれを支える顧問の存在は輝いて見え、一番楽しく辛く様々な経験ができる特別な場であると改めて感じた一年間だった。

教育ボランティアの経験から学んだこと

幼小発達教育コース 1年 大野 百々嘉

私は母校の公立小学校で教育ボランティアに参加した。クラス・学年を固定しなかったため、特別支援学級を含め、様々なクラスの活動に参加することができた。全学年と関わったことで、学年による反応や特性の差、関わり方を考えるきっかけとなる非常に価値のある経験になったと思う。

今回の活動で衝撃を受けたのは、6年生の体育の授業に入ったときの児童たちの反応だ。それまで人懐っこい児童が多いクラスや特別支援学級を中心に支援に入っていたこともあり、6年生のドライな反応にかなり戸惑ってしまった。安全に楽しく運動するために積極的にどうにか関わろうとしていたのだが、それを鬱陶しく感じたのであろう男子児童に少し乱暴な言葉を投げられ、初めて受ける子どもからの明確な反発に大きな衝撃を受けた。教員になればこういった反発を受けることも少なからずあると思うので、早い時期に経験することができて良かったと思う。また、児童1人ひとりにあった距離の取り方、関わり方を考える良い機会になった。一方低学年は積極的に関わりに来てくれる児童が多く、はじめの関係づくりにはほとんど苦労しなかった。業間休みを挟んで同じクラスに入っていた日もあり、外で体を動かしながら子どもの発達や遊び方を知ることができた。また、低学年の授業においては先生方の授業の様子を見ることができ多くの機会が多く、低学年でも児童の自主性に任せている部分が予想以上に大きいということに驚いた。決定権が児童に委ねられている場面が多く、自分たちで学習を進められているという感覚が強いだろうと感じた。

今回の教育ボランティアでは楽しいことはもちろん悩むこともあり、教育現場のリアルを肌で感じるができるよい機会となった。児童にとって学校が楽しい場所となるように教師としてどのように関わっていくべきか、今後子どもたちと関わるなかでさらに深く考えていきたい。

教育ボランティアを通して見つけた学ぶべきこと

言語教育コース 1年 岡部 佑星

今回、私は母校の甲府市立西中学校で教育ボランティア活動をさせていただきました。前期は5時間目に通常級2年次の英語、6時間目と清掃・帰りの会は特別支援学級の支援に入り、後期は特別支援学級に入りました。生徒の立場ではない視点で学校現場を見るという充実した活動となりました。講義で聞いてはいたものの、ICTの活用が想像以上に進んでおり、英語の授業でKhootというゲーム形式のQ&Aを使ってスピード感重視で選択式の問題を解いたり、自分の端末でリピーティングをしたりしながら学習していました。ICTを活用した授業を目の当たりにする度に自分が受けていなかった教育を生徒に行わなければならないことに不安を覚え、自身がさらに学んでいく必要性を感じました。他クラスに入るとまた、生徒の様子が異なり、同じ内容をするにもその「生徒観」にあった振る舞い・授業計画を行うことの重要性も理解することができました。また、将来、副免許として取りたいという思いから知的障害をもつ生徒のいるクラスの支援もさせていただき、7名の生徒との関わりから「知的障害のある子ども」と一括りにするのではなく一人一人の個性を適切に理解することや、どのような関わりをしていけばその子どもにとって安心できる場所になるのかを考えることが大切だと学びました。はじめは、話しかけても話してくれず、距離を感じていたものの、日を重ねるにつれ、家庭科の被服実習の時には「サポートは岡部先生指名で」と言ってくれるような生徒にも出会い、自分を必要としてくれることは、やりがいにつながると実感することができました。

この機会を通して、生徒と関わることの楽しさや授業を通して分かったと思ってくれる嬉しさを味わえる教員の道に進みたい思いが強くなり、さらに心理面のサポート法や特別支援教育なども含め、大学での学びを深めていきたいと感じました。

教育ボランティアを通して

障害児教育コース 4年 入江 和樹

不登校傾向のある児童生徒たちの学習支援や遊びの支援を行った。活動を通して、彼らの課題や苦手にはそれぞれ異なるものがあるということが分かった。多くの児童生徒たちは基本的な会話などのコミュニケーションはできるが、「それは違う！」と過度に相手の間違いに厳しかったり、「こんなのは野球ではない！」と強いこだわりを見せたりすることがあった。また、嫌なことがあったときに、言葉で誰かに相談することができていない様子も見られた。そういった場面での言葉かけには留意が必要であり、子どもの気持ちを受け止めつつも、適切な手段等を教えることが必要であった。先生方の関わり方から、温かく寛大な態度を意識しながら、言葉かけを行うことができたように思う。また、学習支援の場面では、手先の不器用さがある子どもの支援を行った。空所に合った大きさと丁寧で文字を書いたり、定規やコンパスを使ったりする場面において困難さがあった。定規やコンパスの使い方については、力の入れ具合や丁寧さを意識することや、線の始まりと終わりを意識するように言葉かけを行ったり、印をつけたりすることによって徐々に正しい使い方を身に付けていった。

本活動を通して、自分自身が子どもにとって安心できる居場所でありながら、成長を支える存在となるには、学習や遊びの中での些細なコミュニケーションや日ごろの挨拶、礼儀が大切であるということ学ぶことができた。

附属中学校剣道部での部活動指導補助

言語教育コース 4年 山崎 凜太郎

私は3年の後期、4年の後期を附属中学校剣道部において部活動指導の補助として教育ボランティアに参加した。私は約一年間、剣道部において教育ボランティアとして指導を行う機会を得た。この経験を通じて、生徒の成長を促すために重要な二つのことを学んだ。一つ目は「生徒の特性を見て適切なアドバイスをする事」、二つ目は「お手本になるような行動を心がける事」である。

まず、生徒の特性を見極め、それぞれに合った指導を行うことの重要性を学んだ。剣道部には初心者から経験者まで様々なレベルの生徒が在籍しており、またそれぞれが部活動に対しての熱量も異なっており、異なる性格、身体能力を持っていた。これらの個性を把握し褒めることを重要視して、個別に適切なアドバイスをする事で、生徒は自分に必要な課題に取り組むことができるようになり、自信を持って練習に励む姿が見られた。この経験を通じて、指導者として一人ひとりの特性やニーズを理解することがいかに重要であるかを痛感した。

次に、自分自身が生徒にとってお手本となる行動を取ることの重要性を学んだ。特に剣道は礼節を重んじる武道であるため、指導者として自ら率先して礼儀作法を実践することが求められる場面が多かった。例えば、稽古をする中で「礼法」を欠かさず、正しく行う姿勢を示すことで、生徒たちも同じように礼法に注意して行動するようになったと感じた。指導者の行動が生徒たちに与える影響の大きさを改めて認識し、責任の重さを感じると同時に、指導者としての在り方について深く考える機会となった。

一年間の指導を通じて、私はただ技術を教えるだけでなく、生徒たちの成長を支える環境づくりが重要であることを学んだ。一人ひとりの特性に合わせた指導を行うことで、個々の成長を引き出すとともに、指導者自身が模範となる行動を示すことで、全体としての団結力や礼節が育まれる。これらの経験は、教育現場だけでなく、日常生活や他の分野においても応用可能な貴重な学びとなった。

教育ボランティアを通して

芸術身体教育コース 4年 穎川 桜子

私は、昨年度に引き続き、山梨市内の小学校の6年生のクラスで、週に一度、朝の会から4校時までの間教育ボランティアとして活動をさせていただいた。昨年担当させていただいた学年をそのまま持ち上がりで担当させていただいた。活動の内容は、主に授業補助と、宿題の丸つけ等の担任の先生の仕事の手伝いを行なった。

活動の中で、一番印象的であったことは、運動会の練習である。6年生になると、ほとんどの児童が行事ではリーダーの仕事を務める。5年生までクラスを引っ張っていた児童は児童会に入ってしまったため、縦割り班のリーダーはという特に重圧のある仕事を任されたある児童に対して、できるのかと少し不安に思っていた。しかし、実際に練習の様子を見たとき、私の不安は全くなかった。緊張しながらも、縦割り班の仲間の前で今日の活動や気持ちについて話したり、低学年の児童の面倒を見たりしている姿は、これまでと違う、その児童が大きく成長した姿であった。そして、「頑張っているね」と声をかけたところ、「ありがとうございます！頑張ります！」とすごく自信に満ちた表情で話してくれた。

この出来事を通して、教師のやりがいは、児童の成長が目に見えてわかる場所なのかなと思った。児童は何かのきっかけや積み上げてきた経験で大きく成長する。これは、すごく感動する循環であった。また、児童がこのように成長するためには、教師がきっかけを与えてあげなければならないと感じた。自分が教師になった際には、児童理解をできる限りして、その児童の可能性に気づいて、どんなタイミングでどんなチャンスを作って、児童の成功体験を積み重ねてあげることができるのか、このようなことを考えて教師ができたかと改めて思った出来事であった。

教育ボランティアの活動を振り返って

障害児教育コース 3年 笠原 愛花

私は今回山梨大学附属小学校で教育ボランティア活動を行った。これまでは、母校の公立小学校で活動していたが、今年度は実習先であった附属小学校の配属先の学級で引き続き活動を行いたいと思った。実習のときにも実感したことであるが、この教育ボランティアを通して、私は活動していた学級の担任のようになりたいと思った出来事がある。まず、授業の発表時の対応である。多くの児童が挙手し、担任は誰が発表するのか分かりやすいように起立させた。普通だったら、起立したら途中で発表をやめると注意されるイメージがあるが、担任は「自信がなくなったら座ってもいいよ」と言葉掛けをしていた。この言葉掛けにより、発表に対するハードルが下がり、安心して授業を受けることができる環境になっていると感じた。また、学級の仲間が発表しているときに、ある児童が教科書を読んでいた。担任は、「やめなさい」と言うのではなく、どうして教科書を読んでいたのか理由を聞いていた。理由を聞いた担任は、「いいね」と褒めつつ、「まずは相手に体を向けて聞こうね」と伝えていた。さらに、学級の仲間に声を掛けてお互いの意見を発表し、何人と交流できたか挙手する場面において、1番少ない交流人数が2人の児童がいた。そのとき担任は、「2人だけ？次はもっと多くの人と交流しよう」と言うのではなく、「2人もできたね！」とポジティブな言葉掛けをしていた。この言葉掛けは、対象児童の自己肯定感の向上にも繋がるだろう。このように教育ボランティアは、理想とする教師像を見つけることができる貴重な機会であると分かった。また、児童から来週も来るかと質問され、行くことを伝えると、「やったー！」と喜んでくれるのがとても嬉しかった。私は、来年も継続して活動し、児童との接し方や、理解しやすく楽しい授業のつくり方など、現場でしか学ぶことができないことを学び続けたいと思う。

生徒とのかかわりを通して感じたこと

芸術身体教育コース 3年 弘内 那乃映

ボランティア活動は3年目であったが、特別支援学級をメインに活動することは初めてだったためいつも以上の緊張を抱えての活動スタートとなった。大学で学んだ知識と少ない経験を思い出しながら、日々のかかわりを通してより良いサポートについて考えながら活動することができたと思う。

配属先は生徒数6名と少ないがどの生徒も個性的だった。普段は少しふざけがちな生徒も、友人が困っていたら率先して動く一面があったり、話すのが得意でない生徒が段々と意思表示をしてくれるようになったりと、関わりを通して生徒を理解し、関係を構築することができた。関係を築いていく中で教師として気を付けていかなければいけないことにも気づくことができた。一つ目は距離感を保つことである。私は活動中ある生徒と頻繁に話すようになった。授業での質問はもちろん、休み時間もべったりなんていうことがあった。始めのうちは仲良くなれているんだなと感じたが、段々と甘えてしまえる環境を作っていたことに気づいた。頼られることは悪いことではないが、それによって生徒が甘えてしまい自分で挑戦しなくなってしまうのは良くないので、ある程度の距離感は保ちながら生徒の成長を見守ることも大事だと感じた。二つ目は然るべき注意をすることである。ボランティア学生は教師とは違う存在ということもあり友達のように感じてしまうこともあるだろう。ただ、あくまでも遊びに行っているわけではないのでこちらは特にメリハリをつけなければならない。以前は「だめだよー」と軽く注意することしかできなかったが、これからの生徒の生活を考えると何がどのようにダメだったのか、どうしたら良かったのかをきちんと伝えることが生徒にとっても必要だと感じた。

実習もそうであるが体験を通して分かる気を付けなければいけないことや意識したいことはもっとたくさんあると思うので、よく考えながら残りの活動に挑みたいと考えている。

教育ボランティアを終えて

障害児教育コース 2年 伊藤 実優

教育ボランティアを終えて改めて教員という仕事の大変さとやりがいを感じた。座学でしか学んでこなかった、教員としての大変さややりがいを実際に教育ボランティアという場ではあるが擬似的に体験することで肌で感じることができた。主な活動内容としては、自主学習ノートの確認や提出物の整理、特別支援学級の補助、授業の補助、学園祭に向けての準備などさまざまな活動をおこなってきた。自主学習ノートの確認はほぼ毎回のボランティアで行っていたが、最初は生徒の取り組みに正直少し残念だった。自主学習の本来の目的が失われ提出することが目的となっていた。そこでどうすれば生徒のノートの質が改善していくのか考え、コメントに反映させていった。ページ数を指定してみたり、こういう内容をやってみると良いよと言った具体的なアドバイスをしたりすることを心がけてコメントを書くようにした。すると少しずつではあるが生徒たちの取り組み内容が変化していき「今日の先生のコメントうれしかったよ」などと言ってもらえてとてもやりがいを感じた。特別支援学級での補助は生徒と同じ立場に立って授業を受けてみたり、逆に教員としてアドバイスをしたりする場面があった。知的に遅れのある生徒の学級であるため、どのような声掛けで接するとわかりやすく伝わるかや、障がいの特性を把握した上で生徒と関わっていくことに少し難しさを感じた。さらに学園祭の準備期間にも参加させていただいたが、自分が懐かしい気持ちになりながらも生徒たちが学園祭を全力で楽しむために、教員としての関わり方を学ぶことができた。生徒たち自ら試行錯誤を繰り返し成長していく姿をみて教員という仕事はこういうところにやりがいを感じることができるのだなと感じた。

今回の教育ボランティアを通して教員という仕事に対してポジティブな印象を多く感じることできて、より一層教員になりたいなという気持ちが強くなった活動であったと感じている。

複数の学校に行くメリット

科学教育コース 2年 芦澤 春菜

私は今期3つの学校の教育ボランティアに行きました。授業に補助として入らせてもらったり、放課後の学習会の補助として入らせてもらったりしました。学年や学校によって児童の色が様々で、それによる先生たちの対応についても学ぶことができました。学級に入らせてもらったのは1年生で、その学校では久しぶりに元気で大分荒れた学級でした。国語や算数の授業中絶対に誰かがしゃべっているし、席に着けない子も何人かいました。そのため、教室には常に先生が3人～4人はいて、校長先生も介入するほどでした。私は6月頃からその学校でお世話になっていますが、そんな児童たちにどのように接すれば良いのか考えていました。しかし、児童たちに落ち着きがないのはそれぞれ理由があって日頃関わっている先生たちが特徴を少しずつ教えてくれました。そういった先生たちとの関わりの中で児童の「やりたくない」などの言葉の裏まで考えられるようになりました。今してる活動にクラスみんなで取り組めていることが少なかった6月頃に比べて、冬になってくると落ち着きのなかった子が少し長く授業に集中できるようになったり、けんかの絶えなかった子同士がお互いを励まし合うようになったりしていて、1年をとおして同じ学級にお世話になったことで児童の成長を間近で感じることができました。あと2つの学校では放課後の子ども学習会に補助として入らせてもらいました。児童たちが宿題をするのを見守り、わからないところを教えたり、親の迎えを待つ間一緒にトランプや折り紙をして遊んだりしました。こちらは高学年と低学年に分かれていて、活動に取り組む態度や集中持続力もやはり違ってくるので教え方を工夫しました。

このように多種多様な学年と学校に行くことで、そのときそのときで対応を変えたり、いろんな児童と関わることで十人十色をより実感することができます。

教育ボランティアを通して感じたこと

生活社会教育コース 1年 渡邊 知里

少ない活動回数ではあったが、児童の学びのサポートをして児童の成長を感じられたことを嬉しく思う。私は、主に特別支援学級の児童についていた。特に音楽の授業で、リコーダーの演奏をしたときに印象的だった。その児童は、リコーダーの演奏で周りについていけず、指の動かし方もよくわからないし、音楽があまり好きではないと話していた。自分だけわからなくて置いていかれるというのは、気持ち的にもへこむところがあると思う。また、できないことに対して自信をなくしてしまったり、楽しくない、つまらないと感じたりすることも当然のことだと思った。しかし、その気持ちを受け止めつつも、やるべきことをやらなくてはいけないときもあるし、今はその練習でもあると考えた。そして、どうか少しでも前向きに取り組んで欲しいと思い、「できるところだけでもいいからやってみよう」と声をかけた。すると、その児童は「最後のドの音とここのレの音ならわかるよ」と言ってこちらにやって見せてくれた。できることがあると自分でもわかったのか、全体で演奏するときも前向きに取り組み、全体の演奏に加わったことで自信が湧いたようだった。その後のリズム創作の活動では、先ほどまで音楽が好きではないと言っていたのが変わって、楽しそうに取り組んでいた。この児童との関わりを通して、一時間の授業という短い時間の中でも子どもは成長することを実感した。そして、教師にとって大事なことは、その子どもの可能性を信じることだと思った。子どもが、できないからやらないと諦めてしまっていたとしても、教師は諦めずに、子どもの気持ちに寄り添い、向き合っていくことが必要だと思う。

最後に、「先生明日も来る？」と期待を込めて聞かれたときは、教育ボランティアとして活動していることが児童に必要とされているように思えて嬉しかった。これからも、できる限り児童の気持ちをくみ取り、子どもの成長の一助になれるように活動していきたい。

教育ボランティアを通して

科学教育コース 1年 市川 葵

私は山梨大学附属中学校で2年生の数学の授業補助を主な活動とした。授業中、問題演習の時間に教室を回り、手が止まっている子に声をかけて解答の助言をした。はじめはどのように声をかけるか戸惑ったが毎週ボランティアに行くことで生徒の顔やクラスの雰囲気がわかり、生徒との関係も構築され声をかけることが容易になった。思考のヒントを与えると「わかった。」と言って生徒が一人で解答する姿が印象的で、「解けました！ありがとうございました！」と笑顔で報告してくれる姿をみて、教えることのやりがいを感じた。一方、わかりやすく説明しているつもりだったがうまく伝わっていないこともあった。生徒がどこまで学習内容を理解しているかその場で把握しきれなかったことが原因であると考えた。毎回コミュニケーションを大切に生徒が理解している内容を確認しながら説明するよう心がけた。また、現役の先生の授業を観察する機会となりとても勉強になった。特に、ICTを活用した授業は私自身受けたことがないため自分が教員になった時どのように授業すべきか大学の講義を受けているだけではわからないことだった。数学では関数の学習の際にグラフの値を変えることで値によるグラフの変化を容易に捉えることができ、図形分野では形を変形させるなど紙面上では難しいことが実現され、学習を支える重要なツールであることを実感した。

来年度以降も教育ボランティアに参加し教育現場に触れることで座学で得た知識を活動で実践し、知識が教育現場でどこまで通じるのか学びたい。そして、教育ボランティアの経験から自分なりに考えたこと・感じたことなど、今後の大学での学習や教育実習に活かしていきたい。また、現役の先生方の授業の進行の仕方や児童生徒との関わり方など今後の教育実習や教員生活に活かせる学びを得る機会となるよう積極的に先生方に助言をもらいたいと思う。

教育ボランティアで学んだこと

芸術身体教育コース 1年 四井 桃香

私は中高の教員志望だが、小学校の雰囲気も感じることで、現場を通して経験を増やす目的で参加した。実際に子供たちと関わることで、教える楽しさ、子供たちから受けるパワーによって教員の魅力を感じることができた一方、全員に寄り添いながら教育をしていくことの難しさを感じた。

今回、週に3時間、2、5、6年生の教室に入らせてもらい、主に算数の授業サポートを行なった。最初に自己紹介した時から、たくさん質問をしてくれたり、すぐに名前を覚えて話しかけてくれたりと子どもの記憶力、コミュニケーション能力に驚いた。さらに慣れてくると「先生ここ教えて。」と質問してくれたり、「先生図書室行こうー。」と懐いてくれてたりして嬉しかった。算数の授業ということもあり、理解度に大きな個人差がついてしまっていて、ついていけない子には一対一で教える必要があった。この場合、同じ子のところばかり回ることになってしまうため、理解できている子たちは寂しさを覚えてしまうのではないかと思い、一人一人に向き合えるかというのは子供達との信頼関係を築いていく上で重要なポイントだと感じた。また、特別支援級にも所属している子や、保健室登校をしている子など、本当に様々な子ども達と出会い、先生方が親身に寄り添っているのを見ることができて、とても勉強になった。さらに、今までは主に担任の先生が子供達と関わり、指導をする印象があったが、校長先生が休み時間や、給食の配膳の時間を子供達と一緒に過ごしている様子や、教頭先生がプールの整備を自らの手で行い、生徒に親しまれている様子を見て、小学校に対する印象が大きく変わった。

このような新しい発見から、自分はまだまだ学ぶことがたくさんあると思ったし、今の自分のままでは良い教員にはなれないので努力しなければと感じる良いきっかけになった。

◇学びの振り返りシート

学年	2	コース	学校教育課程生活社会教育コース
学籍番号	E2304015	氏名	長谷川 鈴
1 活動場所	甲府市立里垣小学校		
2 主な活動内容	児童の学習支援		
3 教育ボランティア活動を進めるにあたっての決意（目標）を記述してください。			
児童と触れ合う中で児童との関わり方を学ぶ。また、学習面ではどのような場面でもまづきが見られるのが、生活面では休み時間などに児童がどのように過ごしているかなどを観察することで、3年生の教育実習に活かせるようにする。			
4 今日の活動で一番に残ったことを記述してください。			
06月 05日	今日の活動で一番に残ったのは、授業中の児童の様子だ。今回は3年生の音楽の授業に参加した。児童は集中力が無かった。先生の説明中にリコーダーをいじりだしてしまったりお喋りをしたりしていた場面が多く見受けられた。その度に先生がと嫌り返し注意するのがとても大変だと思った。		
06月 07日	今日の活動で一番に残ったことは、図画工作の指導の難しさだ。今回は5年生の図工の授業に参加した。児童に声をかけながら、アドバイスと共に「ここがさっき進んだね！」などの気づきも伝えることが大切なのだなと思った。		
06月 12日	今日の活動で印象に残ったことは、授業後半で行ったレク（ドッジボール）で教員が放った「毎けたチームは悔いと思うが、人の事を構う前かのように思われるが、とても難しい一言だ」と思った。		
06月 14日	今回の活動で印象に残っているのは、PCを使える児童の多さだ。修学旅行の思い出発表会に向けてスライド制作に動かしむ6年生の授業に参加したのだが、クラスのはほとんど子どもたちが求めるのでスライドを作ることができていて驚いた。逆にできない子へのフォローを丁寧にすることが求められると思った。		
06月 19日	今日の活動で一番心に残ったことは、子ども達が算数で書く箇所を忘れていた。どこで児童が書くのかが少ない（分数の計算）の気づきをした。子ども達が算数で書く箇所を忘れていた。どこで児童が書くのかが少ない分かった気がして、これからの活動の参考になった。		
06月 21日	6枚時は、図書館で1・2年生の学習支援を経験した。最初は子どもたちが騒いで収集がつかない事態にならずに済んだ。子どもたちは集中力が無かった。最初は子どもたちが騒いで収集がつかない事態にならずに済んだ。子どもたちは集中力が無かった。最初は子どもたちが騒いで収集がつかない事態にならずに済んだ。		
06月 26日	社会の授業が印象に残っている。前回は映像を使った授業を行ったと聞いたので、機会があればぜひ見てみたいと思った。また、これまで見てきた他の授業と比べて児童を進めるスピードがとても早く感じた。社会は教えるべき内容がたくさんあり、授業の進め方と比べても重要になるのでスピード感が参考になった。		
06月 28日	1年生の音楽の授業が印象に残っている。子ども達は集中力が無かった。子ども達は1つ1つの活動を楽しそうに取り組んでいて、1年生は「楽しい！」と感じた事には全力で取り組める点が良い点だと感じた。		
07月 03日	算数の授業が印象に残っている。練習問題を解く際に数直線を書くのが苦手な児童がいた。数直線に数直線を書くのが苦手な児童がいた。数直線に数直線を書くのが苦手な児童がいた。数直線に数直線を書くのが苦手な児童がいた。		
07月 05日	図工の授業が印象に残っている。電動のこぎりは扱いが難しく、ケガもしやすい装置なので、技術面と安全面両方の指導をしっかりと行う必要があると思った。板を切る方向を見ながらの扱いが上手だった。かきすることがポイントだと学んだ。		

07月 10日	6年生の短歌作りの授業に参加した。児童の短歌はどれもとてもユニークで子どもならではの発想だなと感じた。PCを使用した短歌作りについて他のアイデアを参考することで一人ひとりの考えを参考にする点が良いと感じた。
07月 12日	社会科の授業では教科書に載っているイラストから「何をしているイルカ」を児童たちが子どもならではの発想で描き出した。児童が社会科に興味・関心を持てるように児童の学習意欲を高めることができた。
07月 17日	図工の授業に参加した。きりや板に穴をあける作業が難しい点があるが、児童が社会科に興味・関心を持てるように児童の学習意欲を高めることができた。
月 日	
月 日	
5	あなたの決意（目標）を振り返り、自分が変わったと思う点があれば、何がどのように変わったのか、また、そのことについてどう思っているのか、記述してください。

◇学びの振り返りシート

学年	2	コース	学校教育課程山梨県小学校教員養成特別教育プログラム
学籍番号	E2303103	氏名	幡野 心優
1 活動場所	韮崎市立韮崎北西小学校		
2 主な活動内容	授業サポーター		
3 教育ボランティア活動を進めるにあたっての決意（目標）を記述してください。			
多くの児童と関わり、今の教育現場について知る。教員の授業を見て、技術や工夫を学ぶ。			
4 今日の活動で一番心に残ったことを記述してください。			
06月 05日	2年生に主に入っていたのだが、中休みに2年生の教室にいたら4年生が「遊ぼう!」と呼びに来てくれた。意気込みも2年生と鬼ごっこを始めた。1年生や3年生、4年生など、様々な学年が集まってきた。歓迎されているのだと実感できてとても嬉しかった。		
06月 12日	4年生の授業が特に印象的だった。話し合いをしてから、自分の意見を書く形式や授業企画を子どもたちを含めて考へて着る授業形態は自分が受けてきた国語の授業とギャップがあり、学ぶことが多かった。また、教師の意気込みもどとどとあり、それに合わせて授業を工夫しているのだと感じ、自分の信念や持つことの重さを感した。		
06月 19日	4年生の国語の授業後にICTの活用と板書の使い分けについて担任の先生に尋ねた。必ずしも毎時間ノートを必ず必要はない。なんののために板書させるかという考えが大切と言われた。自分の中で10についてのを考え方が少し変わった気がする。		
07月 03日	一年生の給食における教師の動きがとても参考になった。全員に配り終えた後に教師が配膳の入れ物を食べたため、教える方が難しかった。また、子ども達の意見を尊重してしまいうような教える方しかできず、本当はどう助言すべきなのか分からなかった。		
07月 17日	2年生の算数の時間で時計の問題と100までの数の問題のプリント直しをしていた。時計は自分自身が苦手だったので児童の要望に合わせ、増やしたり、減らしたりするだけなく、特に食べるのが遅い児童には100までをどう助言すべきなのか分からなかった。		
09月 02日	朝、玄関にうづくまっていた子がいた。「学校に行きたくない。」と言っていたのだが、私はなにもできなかった。最終的に先生2人がかりで教室まで子どもを運んでくれたのだが、自分にもできなかったことがあった。のではないかと反省した。学校に行きたくないと言っている子を見るのは辛かった。		
09月 03日	今日、初めて5年生の授業にも入った。今までも感じていたことだが、担任の先生によってクラスの雰囲気、全く違う。同じことを伝えていても、先生によって伝え方は異なり、子どもたちの受け止め方も異なる。もっといろいろな先生の授業が見たい。		
09月 04日	4年生の授業で漢字練習をしていたのだが、私が今まで見てきたことがない方法だった。授業後に話を聞いたところ、宿題では漢字練習は出さないと言う。しかし、子ども達はすごく楽しんでいて効率が良いのだと思った。おすすめの本も教えてもらったため、読んでみたいと思う。		
09月 11日	いつもは教室で元気に遊ぶように言うてくれる子が今日は玄関でずっと泣いていた。教室に戻っても12校時生部の下に隠れて隠れていて声をかけても動かなかった。見ていていいのか、何かが行動を起した方がよかったのか分からず、自分の不安な気持ちを感じた。		
09月 17日	小学校の英語の授業を初めて見てもらった。中学の観察実習で見た授業と同じ内容を行っていた。想像よりもレベルが高かったが、高学年だからこそ、恥ずかしさを感じる子どももいると感じ、そこは難しい部分だと思った。		

[illegible]

甲府市教育支援ボランティア事業における山梨大学生の活動について

甲府市教育委員会
指導主事 山主 公彦

1. 事業の概要

- (1)事業名：甲府市教育支援ボランティア事業（H22年度より事業開始）
- (2)目的：甲府市立小中学校において児童生徒へのきめ細かな支援の充実を図るために、甲府市内にある大学に在籍する学生を教育支援ボランティアとして派遣する。

2. 山梨大学生の活動の実際（R6年度）

- (1)活動人数：45名【R5年度…46名】
- (2)派遣先学校数：22校（小学校13 中学校9）※全36校、3適応指導教室中
- (3)主たる活動内容：タイプ別に見ると、多い順に、「授業におけるきめ細かなTT支援」、「特別支援教育対象児童生徒への支援」、「不適応児童生徒への支援」の順となっています。
- (4)活動回数・時間（45分単位）：おおよそ、延べ約581回・延べ約2686時間【R6年度】

3. 派遣先小中学校からの感想（抜粋）

子どもへの傾聴の姿勢が素晴らしかったです。担任が気づくことができないような視点から行動を観察してくださり、子ども達の悩みや問題に気づくことができました。担任が学ばせていただく事がとても多かったです。【小学校】

子どもの話に最後まで耳を傾け、行動を丁寧に観察していただいたおかげで、今まで気づくことができなかった子ども同士の人間関係、子どもの持つ悩み、長所などを知ることができ、学ぶことがたくさんありました。毎週、全力で子ども達と関わっていただき感謝しております。【小学校】

特別支援学級の児童に付き添い、聞き取れなかった指示を再度説明したり必要に応じてアドバイスをしたりする活動をしました。集団の中でなかなか質問ができずに不安になったりイライラしてしまったりする児童にとって、とても助けになりました。【小学校】

児童の様子を観察し、困っている児童に積極的に関わり支援を行った。児童ができたことを認め、よく褒めるので、児童が自信を高めて学習に取り組む姿が見られた。休み時間は児童と進んでコミュニケーションをとり、良い関係を築くことができた。【小学校】

活動当初より自分から「何かやることはありますか」と担当職員に話をするなど、この活動の目的を理解して、前向きに取り組んでいた。誰に対しても礼儀正しく接する姿勢に職員一同好感が持てました。【中学校】

1年・2年・3年生（それぞれ1クラスずつ）の数学の授業に入り、きめ細やかな学習支援（主に個別支援）を行いました。個別の支援を要する生徒を意識して机間巡視したり、生徒の質問に丁寧に説明したりする姿が見られました。【中学校】

4. 活動の成果と課題

本市では、教育支援ボランティアをスタートさせて15年目を迎えました。各校からは、毎年たいへん高い評価とすばらしい成果の報告をいただいております。学生の皆さんにとっても、教育実習の前後にボランティア活動を行うことは、スムーズな実習への移行や、その後の深い教育実践への接続など、より高い教育効果が期待できると思います。

活動日や活動時間、活動内容などは、大学での講義の予定を踏まえながら、学生の皆さんのニーズをもとに、活動校との相談によって決めていきます。また、大学が甲府市にあるため、交通の利便性にも優れ、ボランティア活動と大学での学びを両立するには最良だと思います。

今年度も前期後期で募集ができたことで、たくさんの学生の皆さんに参加していただきました。学生の皆さんにも、大変熱心に、また丁寧に子ども達と接していただき、学びをサポートしていただきました。感謝申し上げます。今後も、学生の皆さんが安心して充実した活動ができますようにサポートしていききたいと考えています。1人でも多くの学生の皆さんの参加をお待ちしています。

「2024年度 学生教育ボランティア活動を振り返って」

南アルプス市教育委員会 指導監 内藤 共哉

1 本年度の活動状況

(1) 学生ボランティア数 12名

(2) 活動場所 市内小中学校 7校

学生が希望する学校で活動ができるように調整しながら、小学校4校、中学校3校で活動していただきました。

2 活動の実績 <山梨大学の学生12名による活動>

(1) 学 校・・・若草小学校、若草南小学校、豊小学校、南湖小学校

白根巨摩中学校、若草中学校、櫛形中学校

(2) 内 容・・・学習支援（授業準備・補助、放課後学習）、特別支援、部活動支援等

(3) 時 間・・・大学の授業の空いている時間を使い、午前中や午後、放課後など各自の時間に合わせた時間設定で協力していただきました。

3 活動の様子（小中学校の感想から）

<小学校>主に算数科の学習支援に入っていました。自力解決の場面では考え方のヒントを与えたり、練習問題を解くときには困っている児童に考え方を教えたりして、その場に必要な支援をしてくれました。問題解決ができ、喜ぶ児童の姿をたくさん見ることができました。体育の時間では準備を手伝ったり、長縄を回しながら児童に励ましの声掛けをしてくれたりしました。「教師になりたい」という気持ちが強く、取り組みながら自分も学ぼうという一生懸命な姿が見られました。

<中学校>4名の教員志望の学生が登録し、自分の専門教科以外の授業においても、状況に応じた臨機応変な支援をしてもらいました。中1ギャップを防ぐため、主として1年生の数学や国語を中心に、サポートをお願いし、教科担任が行き届かないところを対応していただくことができました。生徒から寄せられた声としては、「わからないところをすぐに聞くことができて良かった。」、「近くに聞ける人がいてくれると、授業中にわからないところをわかるようにしよう、という気持ちが高まる。」と、手厚いサポートが受けられた様子が伝わってくるものばかりでした。

4 活動を振り返って

本年度は、12名の教育ボランティアの皆様により本市の学校教育を支えていただきました。児童生徒に年齢が近い皆さんの寄り添った支援や関わりが、子どもたちの安心した学校生活につながっていたと思います。また、温かい声かけのおかげで、自分の力を発揮できた子どもたちも多かったと聞いています。まだ何年前ではありますが、皆さんが児童生徒として通っていた当時と比べ、現在の学校教育の姿は大きく変わってきているのを感じたと思います。1人1台端末の使用を前提とした単元設計や授業展開など、子どもたちの個別最適な学びと協働的な学びをどう充実させていくか。同時に求められるソーシャルスキルなどのコミュニケーション能力をどう向上させていくか。保護者や社会が求めている学校教育が年々変化しているこの時期に、実際の学校現場を経験したことが皆さんの力になっていくことを期待しています。南アルプス市における教育ボランティア活動の受け入れも本年で11年目になりました。この教育ボランティアに参加してくださる学生のみなさんは本当に意識が高く、勉強はもちろん学校の楽しさや面白さを子どもたちに伝えてくれました。時には精神面での支えにもなっただき、各校からは感謝の言葉がたくさん届いています。今後も多くの学生の皆さんに参加していただき、子どもたちのために若い力をお借りできれば幸いです。

「 2024 年度 教育ボランティアについて 」

甲斐市教育委員会

指導主事 佐藤耕太

1 本年度の活動状況

(1) 学生ボランティア数 9 名 (延数)

(2) 活動内容・場所

① 市内小中学校への教育ボランティア活動

内容：学習支援, 特別支援, 個別支援, 部活動指導 等

場所：竜王小学校, 敷島小学校, 竜王北中学校

② 甲斐市中学生対象の自学講座

内容：講座運営, 学習支援 等

場所：竜王北部公民館, 竜王中部公園セミナーハウス, 敷島公民館, 双葉公民館



2 活動の様子

(1) 市内小中学校への教育ボランティア活動 (小中学校の感想から)

【 小学校 】

昨年度に引き続きのボランティアでした。勤務態度がよく昨年の経験から本校の教育や児童について理解があり, 円滑な活動ができていました。そのため, 職員との連携もよかったです。学生さんの来校を楽しみにしている児童がたくさんいました。休み時間は外で一緒に遊び, 学習支援でも積極的に児童に関わる姿が見られました。教育実習等で忙しいと思いますが, またボランティアとして来てくれることを願っています。学校の人手不足が深刻な状況にあるなか, この事業が学校にとって大変有難いものとなっています。来年度のボランティア活動にも応募したいと思います。

【 中学校 】

とても意欲的で, 生徒との関わりを大切にしていました。支援が必要な生徒に対しても, 教科の先生や学年主任と連絡を大切にしてお対応していました。部活動等も参加できる時には, 生徒と一緒に活動していました。何事にも前向きで, 何よりも生徒との活動を楽しみながら笑顔で行う姿が印象的でした。教育ボランティアに参加していただき本当にありがとうございました。

(2) 甲斐市中学生対象の自学講座

自学講座は, 山梨大学と山梨県立大学の学生の皆さんにご協力いただき, 運営から学習支援までのすべてをお願いしています。本講座には, 市内在住の中学生 1 ~ 3 年生が参加しており, 中学生からは, 「参加してよかった」「勉強が進んだ」といった感想が数多く寄せられています。

中学生は, 年齢の近い大学生の皆さんに親近感やあこがれの思いを抱いており, 個々の学習状況にあったアドバイスを受けられることを心待ちにしております。大学生の皆さんには, 今後ともご協力いただけることを心より期待しています。

本講座は, 山梨大学と山梨県立大学の学生との連携によって成り立っていますので, 活動を通して皆さん自身も仲間との輪を広げ, 共に教職を志す仲間と積極的かつ主体的にご参加いただければと思います。山梨の教育を支える伝統ある山梨大学の学生の皆さんの力に期待しています。



「熱意あふれる活動に感謝 ～受け入れ校からのメッセージ～」

中央市教育委員会

教育指導監 中村 文彦

【田富小学校より】

外国籍児童が全校の5分の1を占める本校には、日本語指導や多文化共生に興味をもつ方が毎年訪れています。昨年度も明確な目的や目標をもった熱意のある2名が訪れ、積極的に活動していました。『日本語を母国語としない児童・生徒の増加とその対応』という教育課題に対応できる指導力を身につけたい」「多様性を尊重した活動を通して、外国籍の児童とのかかわり方に視点をおいて学びたい」「外国籍児童への支援体制や取組を学び、実践力を高めたい」という思いをもっていたので、日本語教室でのTTや教室での入り込み指導を通して、様々な学年の外国籍児童にかかわっていただきました。一人一人に寄り添って丁寧に指導する姿や子どもたちと笑顔で戯れる姿、明るく浚刺と挨拶をする姿が印象的な2名でした。

活動を終え、「当たり前で話している言葉を伝えることの難しさや大切さを実感した」「見て学ぶという視覚的な援助も重要だと学んだ」「毎回発見や学びがあり、最後まで楽しく活動することができた」との感想をいただきました。何かを吸収しようと意欲的に活動する姿から私たち教職員も刺激を受け、たくさんの元気をいただきました。子どもたちも持ち前の明るさと人懐っこさを発揮して、2名とすぐに仲良くなり、一緒に話したり遊んだりできることを、とても喜んでいました。ありがとうございました。

教育ボランティア活動は、将来教員を目指す方にとっては、実際に教育現場を体験でき、実践的な力を身につけ、教員という仕事への理解を深めることができる絶好の機会です。多文化共生に関することを学ぶには、本校はうってつけの環境です。今年度も一緒に勉強したり遊んだりしてくださる方を募集します。日々の教育活動や学校行事に参加していただき、楽しみながら子どもたちを支援してみませんか。きっとあなたの将来にとって、必ずプラスになる学びができると思います。お待ちしております。

【三村小学校より】

本校では、コロナ禍以前、教育ボランティアの学生さんに本校に来ていただき、主に補修学習等のサポートに入っていました。コロナ禍もあけ、今年度、久しぶりに本校の卒業生である杉野さんに教育ボランティアとして来ていただきました。主に3年生の授業の支援を国語や算数、体育、時には特別支援学級の支援にも入っていました。児童一人一人に寄り添いながら、丁寧な学習支援をしていただきとともに、休み時間や清掃活動、学校行事では、積極的に児童と触れ合うことを通して、大学では学ぶことができない、教育現場での生の雰囲気や児童の様子、学習支援の方法などを日々の活動の中で体験してもらいました。教育ボランティアの活動を通して、教員の魅力ややりがいを発見していただき、教職を目指す皆さんの将来につながれるとありがたいです。

【田富中学校より】

今年度、本校には、1名の学生が教育ボランティアに参加してくれました。中学校の英語教諭を目指しており、早いうちから学校現場を体験したいという思いをもってボランティア活動に参加されました。教育ボランティア活動は、将来教員を目指す学生の方にとっては、実際の教育現場を体験でき、実践的な力を身につけ、教員の仕事への理解を深めることができる絶好の機会です。また、本校は、外国にルーツのある生徒が多く在籍しており、多文化共生に関することを数多く学べます。学校現場において、子どもたちとふれあいながら、生徒たちの支援をしてみませんか。きっとそこには、あなたの将来にとって、必ずプラスになる学びが生まれると思います。お待ちしております。

2024（令和六）年度 教育ボランティアの活動について

昭 和 町 教 育 委 員 会
教育指導監 富士池慎一

【押原小学校】

本校は、山梨大学より本年度3名の学生さんに教育ボランティアとして御協力いただきました。ボランティアに入った学級では、主に個別指導が必要な児童の支援や学習の補助に入っていました。学生さんが来てくれることを児童だけでなく担任の先生方も心待ちにしていました。大学での学びを活かし、児童に声をかけたり、学習の支援に入ったりする様子が見られ、とても意欲的に活動を行っていました。

このような活動は、学生さんにとっては、キャリア形成を積み重ねる上で貴重な機会となり、学校としては、支援の手が増えて子どもたちにさらにきめ細かな教育をする機会ともなります。引き続き教育ボランティアの活動が継続されることを切に願います。

【西条小学校】

本年度は、山梨大学より1名の学生さんに教育ボランティアとしてご尽力いただきました。主に個別指導が必要な児童の支援や学習の補助に入っていました。細かいところまで目を行き届かせることができることは何よりありがたかったです。来校していただける曜日が決まっていたので、児童も心待ちにしていました。また学習だけでなく、休み時間も子どもたちとふれあい、一緒に遊んだり、けがをしている児童の補助に入ったりしていただきました。児童と年齢が近いこともあり、お姉さんのように慕われていました。こうした機会があることは、学校現場の様子を学ぶこと等、学生さんにとっても大変貴重だと思います。引き続き学習支援等ご協力をいただけるとありがたいです。



【常永小学校】

本年度は、山梨大学からのべ5名の学生さんに教育ボランティアとして来ていただきました。主に個別指導が必要な児童の支援や学習の補助に入っていました。「個別最適な学び」「協働的な学び」といわれる中で、個々に児童に支援できる教育ボランティアの学生さんがいることは児童にとっても指導者にとっても大変ありがたいです。さらに家庭や地域のあり方や、子どもたちを取り



巻く環境も大きく変化し、支援の必要な子も増加傾向にあります。本校に来ていただいている教育ボランティアの学生さんは、とても意欲的かつ熱心に学習と生活のサポートをしてくれています。また、教育ボランティアの学生さんが来る日を心待ちにしている児童もいます。引き続き学習支援やサポートにご協力いただけるとありがたいです。

2024年度 教育ボランティアの活動について

菰崎市教育委員会

指導主事 川端純一

菰崎市では、小学校5校、中学校2校、教育支援センター「かがやき教室」、青少年育成プラザ「ミアキス」で、毎年、教育ボランティアを募集し、2024年度は、小学校に3名、教育支援センター「かがやき教室」に3名、青少年育成プラザ「ミアキス」に2名、合計8名に教育ボランティアをしていただきました。

小学校では、児童の支援を行っていただきました。授業中、個別支援をしていただいたり、休み時間には一緒に遊んでくれたり、困り感のある児童にそっと寄り添ってくれたり、慣れないながらも一生懸命に活動してくれました。明るく、元気に、接してくれて、児童たちもとてもうれしそうでした。また、学校の職員もその様子を見て、職務をする上で良い刺激にもなっています。小学校において、教育ボランティアの存在は、非常にありがたく、児童たちに良い影響を与えていると感じることができました。

教育支援センター「かがやき教室」は、不登校児童生徒の支援を目的としています。学校へ通うことに困難さを抱える児童生徒たちのサポートをしていただきました。教育ボランティア3名の来室曜日がそれぞれ違ったので、週に3日、教育ボランティアがいてくれてとても有難かったです。本年度は中3の生徒が3人いましたので、一人一人の生徒とコミュニケーションをとりながら、受験対策や難解な内容の指導を丁寧に行ってもらい、大きな成果を上げることができました。また、小学生児童とは、ゲームや卓球など様々な方法で対応してくれて、児童も信頼して心を開いていました。

青少年育成プラザ「ミアキス」は、中高生の交流拠点であり、中高生の自主的な活動を応援する県内でも数少ない施設で2016年に開設しました。教育ボランティアでは、中高生と交流したり、相談に乗ったり、イベントのサポートをしていただいたりしました。

菰崎市では、教育ボランティアに参加してくださる皆さんに、心から「ありがとうございます。」と感謝の気持ちを伝えたいです。教育現場において、子どもたち一人一人に充実した指導・支援の体制を整えるには、熱意ある人材が必要です。皆さんの若いエネルギーは、菰崎の子どもたちのパワーの源です。皆さんの参加を今後お待ちしております。

北杜市学生教育ボランティア活動を振り返って

北杜市教育委員会
指導監 堀内 洋介

北杜市では、教員を志す学生に教育現場の経験を提供するとともに、児童生徒へのきめ細やかな支援により、学校教育のさらなる充実と教育現場の活性化を図ることを目的に、2016年度から学生教育ボランティアの募集を始めました。

募集1年目においては希望者がいませんでしたが、2年目からは毎年希望者がありました。コロナ禍での実施が危ぶまれました時期もありましたが、9年目の今年も1名の希望があり、大変熱心に活動を行っていただきました。

本市では、活内容や活動日などについて、学生の希望を最優先に受け入れを行っています。授業におけるT・T支援や、個別に支援を必要とする児童生徒への対応などを主な内容として、活動していただきました。これまでの配属校からも次のようなコメントが寄せられています。

学校の様子も早く理解し、率先して児童へ関わっていました。最初は、担当者と全体の流れ等を確認していましたが、慣れるに従って自分で考えその場に応じた対応ができるようになってきました。

いくつかの学年に付いて学習支援を行いました。明るく、穏やかな人柄で児童にもすぐに馴染んでいました。机間巡視を行いながら、戸惑っているような児童へ適切な声掛けを行うことができていました。また、休み時間も児童からの声掛けに応じ、校庭で交流を深めていました。空いている時間にはプリントの丸つけを行うなど積極的に活動していました。

若い学生が学校現場を実際に見て、感じて、自分の考えを持つことに貢献できるのであれば、今後も学生ボランティアを受け入れたいと思います。

将来の職業として学校の教員を考え、真剣に教師を目指す学生がいるというのは、私たち現場の教職員にとって大変頼もしいことです。一方、学生にとっては、厳しい労働環境が取り沙汰されている昨今、「自分にできるのか。」と不安を感じるのも正直なところでしょう。本校の学生ボランティアさんには、実践的な活動を通じ、学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深めることを目的としながらも、純粋に子どもたちと関わり合うことの楽しさや子どもたちの成長を後押しできることの喜びを十分に感じてもらえるよう、できるだけ多くの学年や、学習場面だけでなく学校生活全体に関わってもらえるようにしています。本校の学生ボランティアさんも、その意義をしっかりと感じながら、常に子どもたちに寄り添いながら、子どもの目の高さで指導にあたってくれました。学生ボランティアを通じ、教職への確固たる決意に繋げていただけたら幸いです。多くのみなさんの学生ボランティアへの参加をお待ちしています。

この活動を支えてくださっている山梨大学教育学部教職支援室の先生方、貴重な授業の合間を使って教育ボランティア活動にご協力いただいた学生の皆さんに心より感謝いたします。今後も、教職を志す学生の皆さんが活動しやすい環境を提供することを第一に、募集を継続していきます。さらに多くの学生の皆さんの参加を、北杜市の子どもたちとともにお待ちしております。

学生教育ボランティア事業参加を振り返って

甲州市教育委員会

学校支援ボランティアコーディネーター 小川 正仁

1 はじめに

甲州市では、本年度初めて山梨大学教育ボランティアの受け入れを希望し、後期より市教育委員会としてこの事業に参加させていただきました。

これまで地域支援ボランティア事業として、地域の人材の活用を中心に学校の活動の支援を進めてきていますが、この教育ボランティアは将来を見通す中で教員を志望する意志を持った学生に子どもたちに接してもらえるという点で大きな意義があるものであると感じています。

本年度は、1名の学生にボランティアとして活動していただき、進んで生徒に声をかけるなど、積極的に生徒と関わり、支援していただきました。本市の学校に興味をもっていただき、学生ボランティアとして活動していただいた学生の熱意とボランティア精神にあらためて感謝する次第であります。

2 今年度の活動状況

○ 学生教育ボランティア受け入れ校 中学校1校 (1人)

【活動内容】1・2年生を中心に授業のサポート、清掃活動の指導、スタンバイ（家庭学習準備の時間）のサポート、個別指導が必要な生徒の支援、放課後指導（学習・部活動）等

清掃時に担任が不在の時は、生徒と一緒に清掃活動を行いながら積極的に指導を行うなど、情熱をもって取り組んでいました。また、部活動では支援を必要とする生徒が多く所属する部のサポートに入り、生徒と良好な人間関係を築き、コミュニケーションを取りながら活動のサポートをしていました。

3 今後に向けて

教職を目指す学生から指導や支援をいただくこの事業は、学生にとっても受け入れる学校や子どもたちにとっても大変意義あるものだと思います。学校現場にとっては、学生に支援していただくことで個に応じたきめ細かい指導が可能になったり、年齢の近さから教師とは違う関係性の中で児童生徒と関わってもらえたり、さらには教職を目指す学生の姿に刺激を受け、教育活動が活性化されたりします。また、学生にとっては教育実習以外に学校や教師の仕事、子どもたちの生の姿に触れることで、実習とは別の角度から教師という仕事や子どもたちをとらえ、生活面における実態、子どもたちの中にある様々な個性等を理解する場として、貴重な時間となるのではないのでしょうか。

甲州市教育委員会として、今後ともより多くの学生に参加していただき、甲州市の子どもたちのために若い力をお借りしたいと考えています。さらに多くの学生のみなさんの参加を甲州市の子どもたちとともにお待ちしております。

末筆になりましたが、お世話になった山梨大学教育人間科学部教職支援室の先生方と御協力いただいた学生に心より感謝いたします。今後とも本市への御指導・御支援をよろしくお願いいたします。

「笛吹市学生ボランティア活用事業について」

笛吹市教育委員会
生涯学習課 河西千絵

1 はじめに

笛吹市では、2007年4月から笛吹市学生ボランティア活用事業を行っています。この事業は、教員志望の学生を市内の各小中学校で受け入れ、授業や課外活動等の支援をしていただくものです。

笛吹市教育委員会では、ボランティア活動保険への加入、交通費として謝金の支給をしています。

2 事業内容について

支援内容はTT(ティームティーチング)形式の授業、放課後・長期休業時の学習会、特別支援学級所属の児童生徒の学習補助、クラブ活動・部活動等の支援など多岐に渡っており、学校現場の様々な活動を経験することができます。これまでも、マラソン大会の練習や、運動会の準備または当日の支援など体育行事から学習支援、また、給食指導や休み時間の活動にも積極的に支援いただきました。

学生の皆さんの支援により、受け入れ先の学校では、児童・生徒へのきめ細かな指導が可能となり、学力の向上や指導の充実が図れます。また、みなさんの若い力が、学校現場での活性化にもつながります。そして、なによりも子どもたちや教職員と接するなかで、現任教員の授業方法や子どもたちへの接し方等、学校現場での現実的な対応を間近で見ることができるボランティア活動は、教員等教育関係のお仕事を目指す皆さんにとって、有益な機会となります。

積極的に活動へ参加していただける山梨大学のみなさんの登録を心よりお待ちしております。

3 受け入れ先について

(1) 笛吹市立小中学校(小学校14校、中学校5校)

石和地区	御坂地区	一宮地区	春日居地区	八代地区	境川地区	芦川地区
石和南小	御坂西小	一宮西小	春日居小	八代小	境川小	芦川小
石和東小	御坂東小	一宮南小				
石和北小		一宮北小				
富士見小						
石和西小						
石和中	御坂中	一宮中	春日居中	浅川中		

(2) 放課後子ども教室、土曜学びの広場

市では、放課後や土曜日、長期休暇中における子どもたちの安全・安心な居場所を設け、地域住民の協力を得て、子どもたちに学習支援を行う「放課後子ども教室事業」を実施しています。

本事業は、学習支援を中心に退職教職員で構成された「NPO法人学びの広場ふえふき」に委託していますが、市から学びの広場ふえふきにボランティアを希望する学生を紹介し、これまでも学習支援や交流活動の支援をしていただいています。

4 現場の先生方からの声

授業において児童一人一人をより細かく、より個別的に指導することが求められており、教育現場に必要なマンパワーは十分ではありません。ボランティアの方には、その部分を補っていただいております。今後とも期待しています。/生徒にとって年齢的に近い存在として先輩としての姿を見せてほしいです。/ぜひ教員になってほしいです。

『教育ボランティア活動を振りかえって』

市川三郷町教育委員会
教育総務課 櫻井 茂

1 はじめに

市川三郷町では、2022（令和4）年度から教育ボランティア活用事業を実施しております。

多様化する社会の中、学校現場においても個別最適な学習と協働的な学習の進展を図る必要があります。教員を志す学生の皆さんには、学校内の様子や教育現場での経験、児童生徒とのふれあい等の場を提供することにより、多くのことを学び、児童生徒へのきめ細かな学習支援へのお手伝いをお願いしたく募集をいたしました。

本年度は前期2名、後期2名（前期と同人）の応募があり、小学校において積極的に活動をしていただきました。2名の学生さんには児童生徒に寄り添い、誠実に、真剣に、そして温かく熱心に支援・指導をしていただき心より感謝しております。

2 活動の実績

- （1）活動校 上野小学校、市川小学校
- （2）内 容 学習支援、授業のサポート、部活動指導、行事参加、下校の見守り など
- （3）その他 活動を実施する前に、教育委員会、学校長、学生さんと打ち合わせを行い、活動日、活動時間の確認、調整、支援の内容など一緒に計画を立てました。

3 学校より

教育ボランティアとして活動することは、児童の実態を知ることができ、子どもの学習面でのつまずきやすいところや陥りやすいところ、様々な個性を持った子どもへの対応の難しさ等を感じとることができると思います。また、教育実習とは違い、長期に渡って定期的に学校現場に関わることができます。その間には、教師の子どもへの対応の仕方、教師観、具体的な授業の展開や指導法などを目の当たりにすることで、吸収することや刺激を受けることも多いと思います。実習後にもボランティアを行うと、児童への寄り添い方や指導に、実習で学んだことを実践する場にもなります。

今、学校には、さまざまな課題が突きつけられていますが、どんな実践を目指すのか一人ひとりが考え、「自ら学び ともに育つ 教職員集団」を意識しながら、目の前の子どもたちの「自ら学ぶ」姿、「ともに育つ」姿を思い描きながら主体的に、協働的に、研究や実践を積み重ねていければと思っています。

学生の皆さん、「自ら学び ともに育つ 教職員集団」の一員として、積極的に学校に来ていただき、ともに学びを深めましょう。

4 おわりに

教育現場や児童生徒の様子を実際に感じるができるこの活動は、教員を目指す学生さんにとっては有意義な時間だと感じます。また、本町の児童生徒にとっても、若い学生さんからの指導は距離感も近く、楽しみながら学習ができたと思います。

今後も是非、多くの学生の皆さんに本町の応援団になっていただき、児童生徒への支援や指導をお願いいたします。

皆様のご活躍を期待しています。

「教育ボランティア活動の効果や反響について」

富士川町教育委員会 教育総務課

富士川町では、2014(平成26)年から「そよ風教室」と銘打って、学力の定着が十分でない児童・生徒へ、土曜日や夏休み等を活用した学習支援を行い、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図ることを目的とした活動を行っています。

教室は「小学生の部」(午前)と「中学生の部」(午後)に分けており、それぞれ1回につき2時間開講しています。今年度は小学生の部・中学生の部共に全28回の開講を予定しております。講師については、退職した教員を中心に指導を行っておりますが、教育ボランティアの学生にも協力していただいております。今年度も山梨大学の学生3名に参加いただきました。

昨年度に引き続き、学生ボランティアを講師に迎えることは、とても有意義な活動だと感じました。今回参加した3名の学生についても、教えることに対して楽しさを感じているようで、回を重ねるごとに教え方も上手になってきており、積極的な姿勢が見て取れました。また、他のベテラン講師からも好評で来年度も是非来ていただきたいという声をいただいております。この場をお借りして、今回協力していただいた学生ボランティアに感謝申し上げます。

教育ボランティア大歓迎！ 「子どもたちの笑顔のために・・・」

富士川町立増穂小学校

教諭 熊王 千賀子

山梨大学教育ボランティア活動には、20年程前からご協力いただいております。当初から、特別支援学級の児童の指導補助として、子どもたちの指導に関わっていただきました。支援学級における国語や算数をはじめ、交流学級での体育や図工などの学習の支援をしていただいております。また、一緒に朝の会の見守りをしたり、休み時間に子供たちと一緒に遊んだりと様々な活動をお願いしています。本校には、皆様を待っている子どもたちがたくさんいます。是非、積極的に教育ボランティアに参加していただき、私たちと一緒に子どもたちの教育活動に関わってくださることを心より願っています。

「プライスレスな体験」しに来ませんか。

富士川町立増穂中学校

教頭 芦澤 稔也

今年度の教育ボランティア活動では、学生の皆さんに学園祭の支援をはじめ、授業でのサポートや先生方の事務処理の補助など、多岐にわたりご協力いただき心から感謝申し上げます。特に学園祭の体育部門では、皆さんの全力で取り組む姿勢が、生徒たちにとって大きな励みとなり、練習の雰囲気をも明るく活気のあるものにしてくれました。また、授業支援では、生徒一人ひとりの理解度や背景に寄り添った柔軟な対応をしていただきました。さらに、先生方の事務処理をサポートしていただいたことで、先生方の業務の負担が軽減され、授業や生徒指導により集中できる環境が整いました。こうした裏方での支援は、学校全体にとって非常に重要な役割を果たしています。本校の教育ボランティアになって、子どもたちと共に汗を流し、成長を喜び合ってくれる学生を待っています！

教育ボランティアによる教育サポート事業について

富士河口湖町教育委員会
教育センター所長 渡邊 敏

1 はじめに

富士河口湖町は、2018(平成 30)年 1 月に山梨大学と包括的連携協定を締結しました。具体的な取組の 1 つとして、教育ボランティアによる教育サポート事業があります。本町独自で 2016(平成 28)年度から実施している長期休業中の「学習応援教室」の学習支援に、山梨大学の学生の皆さんに参加していただくというものです。

本年度は、4 名の学生さんから応募があり、町費負担教員や支援員、退職教員と一緒に、町内 1 中学校で学習支援をしていただきました。日程や都合等が合わず今回は、1 名の参加となってしまいましたが、応募していただいた学生さんには感謝しております。

2 学習応援教室

(1) 目的

- ①長期休業中の児童生徒の主体的な学び、問題解決の学習支援を行う。
- ②普段、家庭において 1 人では学習できない子どもたちを支援する機会とする。

(2) 実施方法

- ①会場:町内各小中学校(10 会場) 全校 1 つの教室や学年・低中高ごと時間や教室を分けて実施する等、各学校の実情に応じて実施。
- ②方法:長期休業中の課題や家庭学習のうち、自分で「分からないこと」について質問して教えてもらう。どの教科でも 1 つでも良い。

3 活動の様子

<夏季休業中>

- ・中学校への参加を依頼した。
- ・学校の都合で午後の実施となった。
- ・町費負担教員と支援員と一緒に実施。
- ・先生方より、「生徒とも年が近く、生徒にとっては親しみやすく、学習に熱心に取り組む様子が見られました。」という感想がありました。

<冬季休業中>

- ・参加予定 1 名いたが、都合により参加出来ず。



4 終わりに

本事業にご協力いただいた学生さんには大変感謝しております。今まで参加した学生さんの中には実際に教員となり、本町の中学校に勤務している先輩もいます。昨年度一緒に勤務しましたが、この体験が役に立っていますと言っていました。今後も多くの志のある学生の皆さんのご参加を待っています。

高等学校における教育ボランティアについて

山梨県教育委員会高校教育課
高校教育指導監 大久保雅司

1 教育ボランティアについて

2025 年度から、生徒へのきめ細かな支援の充実と学生の高校教育への理解を図るために、県立高校において教育ボランティアを展開いたします。

2 2024 年度の実施内容について

2024 年度は、2025 年度からの実施に向けて、甲府第一高等学校のご協力を得て、以下のように高等学校における教育ボランティアを試行することができました。

- (1)日 時：11 月 29 日～12 月 20 日の金曜日（12 月 20 日は、事情により中止）
- (2)内 容：総合的な探究の時間（1 年生）における生徒の探究活動の相談対応
- (3)その他：学生の希望により、数学の授業の参観等を実施

3 成果と課題等について

2024 年度は、試行という形ではありましたが、甲府第一高等学校のご協力をいただき実施することができました。実施にあたり、授業での補助等の希望があった状況を踏まえ、協力校とも相談し、総合的な探究の時間における生徒からの相談対応とさせていただきました。探究活動は総合的な探究の時間はもちろん、すべての教科で行うことが必要であり、学びを深める基本となるものです。高等学校においても、各校で力を入れて取り組んでおります。今回、限られた時間ではありましたが、学生の担当教諭の意図を踏まえた生徒への声かけ等により、生徒が 1 時間を充実させることができ、効果のある取組であったと感じています。大学で学問を追究している学生の声かけは、教諭の声かけとは違った効果を生む可能性があるかと改めて感じるすることができました。また、学生にとっても、自身が高校生であったときよりも一歩進んだ探究活動の一部分に触れることができ、今後の大学での学びにも生かすことができるのではないかと思います。

今回の試行では、1 名の学生が応募してくれました。大変熱心に取り組んでくださり、ボランティア初日にもかかわらず、生徒に積極的に関わってくれました。今後は、一人でも多くの学生の皆さんに高等学校における教育ボランティアの意義と魅力について理解していただけるよう、ボランティア内容を整理し、明確に伝える必要があると感じました。

4 2025 年度の実施について

高等学校における教育ボランティアには様々な意義があると考えています。教育関係の職に就こうという学生の皆さんに、高等学校への支援を通してその様子を知っていただくことも可能となります。将来、高等学校の教師になることを考えている学生の皆さんはもちろんですが、中学校の教師を目指している学生の皆さんにとっても、中高の適切な接続・連携という観点からも意味のあることだと考えています。

この取組を、学校現場と協力して学生の皆さんが安心して充実した活動ができるようにしていきたいと考えています。一人でも多くの学生の皆さんのご参加をお待ちしております。

不易流行

山梨市立山梨小学校

校長 日原 英二

昨今の教育現場には、教育のデジタル化、働き方改革など新しいうねりが押し寄せています。

授業の中に ICT を取り入れ、個別最適な学び、協働的な学びによって学習を進めていくことが求められています。しかし、学校では、教師と児童が教室で学習することには変わりはありません。そのためには人と人との人間関係を築くことが第一ではないかと思います。ICT だけでは人と人との人間関係を築くことはできません。学生の皆さんも学生ボランティアとして教室に入り、子ども達の学習の様子、生活する様子をつぶさに見て、子ども達と対話し、人と人とのつながりを感じたことと思います。また、我々教職員は子ども達に勉強を教え、学力を身に付けさせるというのが大切な使命です。しかし、それだけでなく、子ども達に対して、未来に向かって人としての道を示していくという使命があります。そのために日夜努力しています。それは、とてもやりがいのある仕事であると感じています。

学生みなさんは、これから自分の未来を決めていくことと思います。世間で言われるように「教育現場はブラックだ。」と考え、二の足を踏んでいる学生の人人もいるかもしれません。しかし、学習ボランティアとして学校現場に入り、実際に自分の目で見て聞いて感じてみてください。体験することが大切だと思います。

令和7年度も本校ではボランティアを募集します。本校の子ども達も先生方も本当に良い人ばかりです。ぜひ、大勢の方のご参加をお待ちしています。今年度、学生ボランティアに来ていただいた皆さん、本当にありがとうございます！！山梨小を代表して感謝の気持ちを伝えたいと思います。

学童保育は子どもたちの憩いの場

駿台甲府小学校

職名 副校長 小高 淳

駿台甲府小学校では、同敷地内に学童保育「やまびこ学級」を設置しており、学校を行っている月曜から金曜の授業終了後から 18 時 30 分まで児童を預かっています。本校の学童では、児童を預かるだけでなく、併設教室（習い事）として、書道、そろばん、英語、英作文、スポーツ、絵画・図工、囲碁、ダンスの8教室を展開し、児童は希望制で参加をしています。この併設教室の希望者も多く、学童利用者は平均 100 名、もっとも多い日には 130 名強の児童が学童を利用しています。

2024 年度は2人のボランティアの学生さんが来てくださり、子どもたちの宿題の質問に答えてもらったり、いろいろな遊びを一緒にしてもらったりしました。子どもたちも、自分たちと年齢が近いこともあり、学生さんが使用しているネームプレートフォルダには、たくさんの手紙や折り紙が入っていました。

本校は立地的に、山梨大学からは通いづらい面もありますが、私立ということで、公立小学校とは違う体験もできると思います。本校だけではなく、学生さんの力は、各学校で非常に期待されています。学業との両立で大変なこともあると思いますが、みなさんの力で、私たち教職員と一緒に、子どもたちの未来を作っていきましょう。



「駿台甲府中学校へようこそ！」

駿台甲府中学校 副校長 鹿山 さおり

甲府駅から西へ15分、駿台甲府塩部キャンパスに高等学校普通科、通信教育課程と敷地を同じくして、駿台甲府中学校があります。アルプス通りに面した7階建ての白い建物を目にした方も多いでしょう。特徴は施設ばかりではなく、私立ならではのカリキュラムや学校行事もまた然りです。

中高6年一貫教育のカリキュラムでは、中学3年生で高校分野の学習を始めます。また、3年間で100時間を超える理科実験やICT教材を活用した学習コンテンツ（AI英会話・記憶定着アプリ他）など、特徴ある授業を展開しています。

校外活動では山梨県を飛び出し、劇団四季のミュージカル鑑賞、東急ホテルでのテーブルマナー教室などの一日研修や、軽井沢・箱根にある本学の研修施設を利用した2泊3日の合宿や、1泊2日のスキー教室も生徒が楽しみにしている行事です。

おそらく学生のみなさんの大多数は、公立中学校出身かもしれません。これから教師を目指す、あるいは教育関係の仕事に就こうという学生のみなさん、特色ある私学に、ぜひ一度お越しください。「百聞は一見に如かず」という月並みなことわざですが、見るもの、聞くものすべてが新鮮で、これからの進路選択の一助となるでしょう。

右の写真は富士登山で、5合目から河口湖を見下ろしている場面ですが、立ち位置が変わると見えるものが異なります。そんな経験をしてみてはいかがでしょうか。



児童養護施設での学習ボランティア活動について

児童養護施設 明生学園 心理療法士 市川 順子

児童養護施設とは、保護者による虐待・ネグレクト（育児放棄）や保護者の経済的理由から保護者とともに暮らすことが出来ない子どもたちが生活しているところです。現在、明生学園では11歳から19歳までの子どもたちが暮らしています。日中は地域にある小中学校、高校に通学しています。そのため、学園でのボランティアの活動時間は放課後から夜の時間帯になります。1回のボランティアの時間は1時間としています。学習ボランティア活動は主に小学生から中学生を中心に個別に勉強をみていただいています。

学園では、学生さんが学習を通して継続的に子どもたちに関わる事に重点を置いています。虐待・ネグレクトで入所した子どもが多く、そういった子どもたちは大人に裏切られた経験が多いです。人（特に大人）に対して信用することが出来ない子どもが多くいます。短期間での関わりでは警戒したままで終わってしまうことがあります。継続的に関わってもらうことで「来週もある。」「次は〇〇しよう。」などといった、未来の予測を持つことが出来ます。この、未来を予測する力は情緒的な交流になります。子どもたちにとっても学生さんたちにとっても生きていく上で大切な力を養えます。

また、明生学園では集団で生活をしており、職員もその中で個別に関わっていますが、限界があります。子どもたちにとって「自分のために来てくれる。」という事が、自分が大事にされている事に繋がっていると考えています。勉強が第一ですが、時には話し相手になってもらう、一緒に遊ぶ、作業するなどの活動を通して、子どもたちとの関係を構築していけるところに学習ボランティアの醍醐味があると思います。一緒に寄り添っていただくと安心感が生まれます。

科学館でのボランティア活動で新しい発見を!!

山梨県立科学館

事業統括 野副 晋

山梨県立科学館では、実験教室などのお手伝いをしていただけるボランティアを募集しています。サイエンスに興味のある人はもちろん、子どもが好きな人、教育活動してみたい人など、どなたでも大歓迎です。サイエンスに詳しくなくても大丈夫。学校の先生以外の教育職として、科学館職員の仕事に触れてみて新しい発見をしてみませんか？

【活動内容】

実験工作教室などにおける材料の準備や参加者の体験補助、常設展示における展示体験補助など。

【活動場所】

科学館内、科学館周辺の屋外、県内の教育・文化施設など。

【活動時間】

9:00～17:00 のうち、4 時間以上（休憩あり）

【その他】

1. 活動にあたり必要な知識や技能などを習得するための研修を実施しますのでご安心ください。
2. 名札やベストを貸与します。

「山梨県中央児童相談所における教育ボランティアに期待すること」

山梨県中央児童相談所

副主査 中村 桂輔

当所は、児童福祉法に規定される、児童相談所に付設された一時保護施設です。一時保護所では様々な事情により、家庭で過ごす事が難しい児童が生活しています。一時保護期間中は学校に通うことが難しい児童が多く、所内で学習の時間を設けています。児童の学習機会の保証と、内容の充実のために、是非とも教育ボランティアの皆さんのお力添えをいただきたいと思います。また、教育ボランティアの皆さんには、児童の学習だけでなく、希望される方には生活の支援全般も見てもらっています。児童が何を考え、何を思って生活しているかを間近で体感でき、児童との関わりの幅が広がるかと思います。少しでも興味を持たれた方は、お気軽に担当者まで連絡ください。

附属小学校における教育ボランティアの様子

山梨大学教育学部附属小学校

教諭 入月 安奈

今年度は23名の方にボランティアとして参加していただき、主に授業の指導補助、下校指導していただきました。附属小では例年、大勢の方にご参加いただいております、配属学年を決めてボランティア活動を行っています。同じ子供たちに継続して関わることで、児童の実態に合わせて声かけをしたり、指導補助をしたりときめ細かな活動をしていただきました。また、学校行事の準備など運営面のお手伝いもしていただきました。子供たちとは直接関わらない仕事もありましたが、見えないところでの準備等が子供たちの充実した活動につながります。力を貸していただき、とても助かりました。本当にありがとうございました。

「今日も楽しかったです!」「子供たちに折り紙をもらいました!」「子供ってかわいいですね!」

活動を終えた学生さんに、このような感想をいただくことができました。その言葉と充実した顔に、こちら思わず嬉しくなりました。「ボランティアに来る時間を増やしていいですか?」と声をかけてくださった学生さんもいて、とてもありがたかったです。附属小でのボランティアの経験が、少しでも皆さんの糧となれば幸いです。現場の教師からすると、授業中に支援してくれる人がいつも教室にいるということは大変ありがたく、心強いことです。そして、支援してくれる人がいることが学習指導や安全面の充実につながります。職員の一員として活動してくださったボランティアの皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。

「百聞は一見にしかず」

山梨大学教育学部附属中学校

教諭 奥田 陽介

本校では、2012（平成24）年度から教育ボランティアを活用させていただいております。これまでに多くの学生の皆さんに授業補助や部活動支援などで本校の教育に携わっていただきました。

本校には学習意欲が高くハイレベルな学習を望む生徒が多いですが、学習につまずく生徒や集団にうまくなじめない生徒など、様々な生徒がいます。そのような生徒に対して、学生の皆さんは個別に優しく指導して下さるので、皆さんとともに活動することを楽しみにしている生徒も多数おります。また、教育ボランティアの皆さんのサポートが、スムーズかつ効果的な授業展開を生み出すので、本校の教師・生徒にとっても有意義なものとなっています。

部活動においても、教育ボランティアの皆さんが運動部・文化部を問わず多くの部活動の支援に積極的に関わり、熱心に指導して下さっています。皆さんの専門的な指導により、生徒の活動意欲は高まり、各種大会やコンクール等の好成績につなげることができました。

「個別最適な学び」や「協働的な学び」,「複線型授業」のように現在の教育現場は「一人ひとりの学び」や「他者との関わりから生まれる学び」を大切にしています。そのような中で、教育ボランティアとして教育現場に携わることは学生の皆さんにとっても、中学生が何を考え、何に興味を持っているかを理解したり、中学校教師の授業方法、GIGA スクール構想の進展などを直に感じたり、教育現場に対する見方や考え方が深まるよい機会になると思います。

皆さんがこれまで経験してきたこと、一生懸命に取り組んできたことを中学生に伝えてみませんか。生徒とともに学び、生徒とともに汗をかくことで、新たな発見があると思います!!

「幼稚園のボランティア活動」

山梨大学教育学部附属幼稚園

幼稚園教諭 泉 紗恵

1. ボランティアの活動内容

(1) 幼稚園行事の準備, 補助

運動会, 遠足, 発表会などの行事の際の準備や保育補助をしていただいています。運動会では、当日の会場設定, 子どもの補助や用具の準備, 終了後の片付け, また, 遠足では, 園外での園児の安全確保など, 園児と一緒に行事を楽しみながら活動していただいています。

(2) 地域とつながった行事の準備, 補助

地域の未就園児とその保護者が参加する行事において, 園の案内や環境整備などの職員のサポートをしていただいています。

2. 学生の皆さまへ

ボランティアの学生の皆さまのご協力, 毎年感謝いたします。幼稚園で経験したことを通して, 少しでも幼稚園の現場が楽しいと感じていただければ幸いです。これからもぜひ, 参加していただければと思っています。

「山梨大学附属図書館子ども図書室学生ボランティア活動」

山梨大学子ども図書室専門委員会

「山梨大学附属図書館子ども図書室」は, 4,600 冊以上の絵本・児童書を配架する親子で読書を楽しむスペースです。2022 年 5 月には開室 20 周年を迎えました。学生ボランティアの主な活動は, 週 3 回の「子ども図書室」の開室（月・水・土曜日の 13:00~16:00）と季節のイベントの開催です。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため, 開室日を減らし, 感染対策を徹底して安全な運営を心がけました。今年度から感染予防をしながら, 少しずつ対面でのイベントも再開し, 12 月にはクリスマス会を開催し, また 1 月にはさわる絵本の読み聞かせ会などを行うことができました。

「子ども図書室」のすばらしいところは, リーダーを中心に, 学生ボランティアが年度の方針・活動内容を決めていることです。開室は, 月末に担当可能日を報告しあってシフトを組んでいます。授業などの自分の都合に合わせて参加できますが, 小さな子どもたちを対象とした活動を学生が力を合わせて行っていますので, 責任感を持って参加することが大切なこととなってきます。授業で学んだ知識を活動に活かすこともでき, 就学前後の子どもたちの自然な姿や親子の関わりを見たり, 工夫を凝らしながら, ICT を活用した子育て支援を検討したりするなど, 授業では学べない多くのことを得る良い機会となります。これからも, 学生のみなさんの積極的な参加によって, 学生主体の他には類を見ない「子ども図書室」の活動が, より充実していくことを期待しています。

令和6年度 教育ボランティア学生運営委員から

委員長 科学教育コース3年 齊藤 健太

こんにちは！教育ボランティア運営委員会で運営委員長を務めております、教育学部科学教育コース数学教育系の齊藤健太です。教育ボランティア運営委員会では、教育ボランティアガイダンスや教育ボランティア報告会の企画・運営、それに伴った資料の作成などを、学生が主体となって取り組んでいます。興味があればぜひご参加ください！運営委員一同お待ちしております！

副委員長 科学教育コース3年 長澤 陽二郎

教育ボランティア運営委員会では、教育ボランティアに関係する様々な会の運営を行っています。その中で、教職支援室の方々と接する機会も多く、仲良くなることができます。このことは、教採対策にも有効に働くと思います。是非教育ボランティア運営委員会に入って、教採対策ができるよう頑張っていきましょう。

委員 生活社会教育コース3年 中平 渚紗

私は、教育ボランティア委員会の活動を通して協力することの大切さと他コースの学生と交流することの楽しさを実感しています。教育ボランティア委員会の集まりは、毎回たくさんの笑顔が溢れる楽しい雰囲気で進められています。今年も新しい仲間をお待ちしています！

委員 生活社会教育コース3年 森 陽希

委員会では学年や学科を超えて、和気あいあいの雰囲気で協力しながら活動を行っています。ガイダンスや報告会では、司会や写真撮影などを担当したことがあり、このような規模の大きい会を運営したことは、貴重な経験にもなりました。色々な経験をしたい！コミュニティを広げたい！方は、教育ボランティアや委員会にも積極的に参加していただけると嬉しいです。

委員 生活社会教育コース3年 弘内 那乃映

委員会の活動は学生が主体となって運営しています。学年やコースの垣根を越えて交流ができる数少ない機会だと思います。活動日は少ないですがその中でもお互いに協力して活動しています。教育ボランティアとはまた違った活動になりますが、教員採用試験でもアピールポイントになるので是非視野に入れてみてください。

委員 言語教育コース2年 後藤 瑠花

教育ボランティア運営委員の後藤瑠花です。教育ボランティア運営委員会では、名前の通り教育ボランティアの運営を行っています。主な仕事としては、教育ボランティアのガイダンスの配布資料作成や会場準備、ガイダンスブックの編集作業です。様々なコース、学年の方が所属しているので、委員会で集まった際には皆さんと交流できて非常に楽しいです。難しい業務等はないので、少しでも興味がある方はぜひ運営委員会に来てください！

委員 特別プログラム2年 岩下 和紗

友達に誘われ軽い気持ちで始めた運営委員ですが、今では入ってよかったと心から思っています。委員のみんなでワイワイと準備をし、会を運営していく楽しさはなかなか味わえないものです。基本黒板の次第を書いているのでぜひそこにもご注目ください！（と書くよう柴田先生に言われました笑）。

委員 生活社会教育コース 2 年 長谷川 鈴

この委員会では、教育ボランティアを行うだけでなく、運営も学生達で行っている点が特徴だと思います。会全体の様子を動画や写真で記録したり、受付や教育ボランティア通信の作成など細かな部分も全て自分たちで行っています。これらの活動を行うことによって、教育ボランティアについて様々な角度から理解を深めることができます。皆さんもぜひ一緒に活動しましょう！

委員 障害児教育コース 2 年 伊藤 実優

教育ボランティアには今年度から参加させていただきましたが、各校の先生方が熱意を持って働いている姿を見ることがや、子どもたちとの関わり方を現場で学ぶことができました。学生運営委員会では、普段関わることのない先輩の方との交流ができました。ぜひ教育ボランティア学生運営委員会に入ってみてください！

委員 障害児教育コース 2 年 岩澤 胡春

今年度の教育ボランティアの活動を通して、大学の講義で得た知識を現場でどのように実践するかを考えることができました。実際に学校の雰囲気を経験することでしか得られない学びがあったように感じます。また、教育ボランティア委員会に所属し自分とは異なる視点からみた教育ボランティアの活動を知ることができ活動のヒントを得られたと思います。来年度も積極的に活動に参加したいです。

委員 障害児教育コース 2 年 小林 実々

私は教育ボランティア運営委員会に 2 年生の前期から所属いたしました。2 年生からの参加だったので不安でしたが、先生方や先輩方があたたかく迎え入れてくださり、楽しく和やかな雰囲気の中、活動しております。私は教育ボランティアガイダンスにおいて、教育委員会や受け入れ先校の先生方への駐車案内や運営が円滑に進むためのサポートを行いました。ぜひ一緒に運営しましょう！

委員 障害児教育コース 2 年 山部 果凜

今年 1 年、学生運営委員として委員会の運営に携わったり、教育ボランティア活動を行ったりする中で、将来に直結する多くの貴重な経験を積むことができました。来年度は、より主体的に委員会運営や教育ボランティア活動に取り組んでいきたいと思っています。

教育ボランティア学生運営委員会では、一緒に活動してくれる学生を募集しています。興味のある方は、ぜひお近くの学生運営委員会にお気軽にお声がけください！



教育ボランティアニュース No.1

～教育ボランティア経験者に何でも聞いてみよう！～

2024年4月24日 教育ボランティア学生運営委員会

教育ボランティアスタートセミナー・・・4月10日（水）開催

4月10日に令和6年度教育ボランティアスタートセミナーが開催されました。今回のセミナーでは、教育ボランティア活動を初めて行う学生に向けて、教育ボランティア学生運営委員長・副委員長によるお話やグループ協議、甲斐市立竜王小学校の久保田勲教頭先生からお話があり、教育ボランティアに関する疑問や不安を解消し、活動への理解が深まるセミナーとなっていました。本通信では、本会の様子についてご報告いたします。

まず、教育ボランティア学生運営委員長より激励の言葉がありました。副委員長からは「教育ボランティアの目的・ボランティアの活動例・教育ボランティアの良いところ・主な活動場所」に関する説明が行われ、教育ボランティア活動中のタイムスケジュール等を確認したことで、教育ボランティアに対する具体的なイメージを持つことができる内容となっていました。

その後、教育ボランティア経験者の各コースの先輩を交えたグループ協議「教育ボランティア経験者に何でも聞いてみよう！」が行われ、教育ボランティアに参加する際の身だしなみや交通手段、活動内容に関する質問に先輩が答えたり、アドバイスをしたりする時間が設けられていました。

グループ協議の後には、甲斐市立竜王小学校の久保田勲教頭先生からお話がありました。ネグレクトや家庭内暴力の問題など「The 現場」を理解することが可能であったり、自分自身に適した校種を見つけたりすることができるという教育ボランティアの利点を教えていただきました。また、学校現場では「特別な支援を必要とする子ども」の支援・安全確保を担うボランティアが求められているという現場の先生の意見を知ることができました。楽しい雰囲気でお話が進み、本会に参加した学生は久保田先生のお話に釘付けになっていました。特に身だしなみに関する先生のお話で「服装・髪型など多様性を受け入れる時代に応じて学校現場も変わろうとしているが、教育に携わる者として、子どもの前に立つ際には万が一を想定する必要がある。」という説明に学生も納得している場面があり、オンオフの大切さを共通認識するきっかけとなりました。

本会では、1年生をはじめとした90名の学生が参加し、充実した時間となりました。本学期も多くの学生が教育ボランティアに参加していただけると嬉しいです。



【参加者のアンケートより】

- ・先輩の話がとても分かりやすく、様々なことを聞けた。
- ・活動の内容が見えて、参加後の活動が分かりやすかった。
- ・自分にはない視点での質問があり、とてもためになった。
- ・気になっていることや不安に思っていることがすべて解消できて有意義な時間だった。
- ・受入先の先生のお話から、楽しそうな学校現場や、教員側から見た教育ボランティア学生の需要を知ることができて参加意欲が高まった。
- ・これから教育ボランティア活動をする1年生の力になれてよかった。(4年生)

教育ボランティアニュース No.2

～教育ボランティアについて詳しく知ろう！！～

2024年5月15日 教育ボランティア学生運営委員会

教育ボランティアガイダンス・・・4月17日（水）開催

4月17日に令和6年度教育ボランティアガイダンスが開催されました。参加者155名、受け入れ先19機関に来ていただきました。今回のガイダンスでは初めに受け入れ先の学校や自治体の代表者の方にお越しいただいて教育ボランティアの形態や特徴について紹介していただきました。全体での説明が終わると各団体に分かれての質疑応答の時間がありました。全体での説明で疑問に感じたことや詳しいボランティア内容について参加者は話を聞くことができました。本通信では本会の様子についてご報告させていただきます。

初めに服部学部長より教育ボランティアの意義や心構えについてお話しいただきました。教育ボランティア委員長からは、実際に教育ボランティアに参加しての注意点や3年生で行う教育実習につながるとても大切な経験になるとお話しいただきました。時間が経つのはとても早いので、始める前に今日の目標を決め、終わったらすぐに振り返りを行うことで、次のボランティアの際に前回の反省を生かした活動ができるので、より良いものになるとお話しいただきました。



その後は決められた時間の中で、各受け入れ先の担当の方から、ボランティア内容や過去の先輩方の活動の様子などを教えていただきました。どのような内容のボランティアをするのか、どれぐらいの頻度で行けばよいかなど疑問に思っている方も多かったですが、受け入れ先の担当の方の話をよく聞きメモ等を取りながら真剣に話を聞くことができていました。最後に各受け入れ先の担当の方々が教室に広がり、個別の質問タイムの時間になりました。全体での説明で疑問に感じたことや興味を持ったブースに行き積極的に質問をしていました。受け入れ先の方だけでなく

先輩、後輩同士でも多くの意見を出し合い、有意義な話し合いができていました。1年生にとっては不安なこともあったとは思いますが実際に経験している人の話を聞くことができとても良い時間となっていました。

教育ボランティアに参加したいけれど迷っている方や教育現場についてわからないことがある方など、教育ボランティアへの参加を迷っている方はぜひ後期（10月）のガイダンスに参加してください。前期に参加していない方も後期から参加することができます。その他質問等があれば私たち学生運営委員もお答えします。



韮崎市立韮崎北西小学校・・・7月17日（水）訪問

訪問者：萩原 佳子

韮崎北西小学校は創立47年、旧神山・清哲・円野小学校の3校が統合され、昭和53年に開校した全校児童数112人(学級数8)の学校です。「たくましく がんばる子」を教育目標とし、一人ひとりの子どもを大切に、「笑顔あふれる学校～子どもたちの可能性を最大限に引き出し、幸せを願う」の実現のために教師・保護者・地域が一丸となって取り組んでいます。また、卒業生に、パリ2024オリンピック、レスリング種目出場の文田健一郎選手、旧神山小学校は、ノーベル医学生理学賞を受賞した大村智先生の母校でもあり、山梨県を代表する素晴らしい人材を育成された伝統ある学校です。

今回は、山梨県小学校教員養成特別教育プログラムの幡野心優さんが、2校時(9:25～)に行われる「2年生書写」の授業に教育ボランティアとして活動しているところを訪問しました。担任の曾雌先生、学習支援員の阿部先生の指示のもと、児童と同じ高さの目線に立ちながら、個々の児童のペースにあわせて丁寧にサポートをしている様子が印象的でした。また、児童・クラス・学校にとっても温かく、頼もしい存在として受け入れられている様子が伺えました。

当日はお忙しいところをご対応くださった校長の横内理香先生・教頭の佐野一記先生に心より感謝申し上げます。



学習支援をする幡野さんの様子



2年生の児童より

とってもやさしくて、
そとでいっしょにあそ
んでくれるところが大
すきです。 Sくん

【教育ボランティア学生インタビュー】

「教育ボランティアを経験してよかったと思うこと」

○初日から、わざわざ教室に遊びに誘いに来てくれる子がいたり、外で遊んでいると学年関係なく「私も・僕も入れて」と言って、気付いたらすごい人数で遊んでいたりと子どもたちと直接関われる経験が私にとっては貴重で、とても楽しい時間です。「毎回、とにかく楽しい」という思いでいっぱいです。

「教職を目指す気持ちの変化」

○私は2年生になるときに「本当に自分は将来教師になるのか」という疑問を持つようになっていました。しかし、北西小学校で活動する中で先生方からたくさん感謝の言葉を頂いたり、子どもたちが授業中に「みゆ先生、教えてください」と頼ってくれたりやりがいを感じる場面が多く、北西小学校にいく度に「やっぱり教師になりたい」と思いました。そして、子どもが嬉しかった・楽しかった・悲しかった・悩んでいることなど、何でも話したいと思えるような教師になりたいと思います。

「教育ボランティアをはじめようと考えている学生へアドバイス」

○私自身、教職を目指す人のみが「学生ボランティア活動」をするのかと思っていましたが、そんなことは考えずに、まずは“やってみてください”“体験してみてください”きっと「楽しい」はずです。

【横内 理香校長先生のお話】

北西小学校では、開校して初めての「教育ボランティア」学生が本校に来てくれるということで心から「ありがとうございます」と感謝の気持ちです。学校現場のありのままの姿、現実的な対応などを間近で見て学ぶことのできる貴重な機会であり、自ら子どもたちに言葉をかけ教えることで「できた！わかった！」という経験を子どもたちと共感し積み重ねながら教師への道に繋がることを期待し、教師という職業に魅力を感じほしい。学校側がサポートしてもらおうと同時に、若い感性で子どもたちと関わっている様子は、校内の活性化にもつながり子どもたちの教職員も毎週幡野さんに会えることを楽しみにしています。今後も様々な教育活動を体験し、楽しみながら子どもたちを支援してほしいと思います。

教育ボランティア活動を受け入れ、様々なご配慮をいただいている北西小学校の先生方に感謝いたします。

教育ボランティアニュース No.4

～教育ボランティアについて詳しく知ろう！！～

2024年10月8日 教育ボランティア学生運営委員会

後期教育ボランティアガイダンス・・・10月2日（水）開催

10月2日に令和6年度後期教育ボランティアガイダンスが開催されました。今回のガイダンスでも受け入れ先の学校や自治体の計14機関の代表者の方にお越しいただいて、教育ボランティアの形態や特徴について紹介していただきました。全体での説明が終わると各ブースに分かれての質疑応答の時間となり、参加者は全体での説明で疑問に感じたことや詳しいボランティア内容について話を聞くことができました。本通信では本会の様子についてご報告させていただきます。

まず、教育ボランティア学生運営委員長から、教育実習で感じたことやこれから教育ボランティアに挑戦する予定の後輩に向けた熱い思いなどをお話しいただきました。「体験」という言葉について、「体で経験する」と書くということ、教育学部に所属していても4年間の学生生活の中で教育ボランティアなどをしなければ、学校にいる子供たちと関わる「体験」はなかなか出来ないということなどをお話しいただき、参加者は改めて教育ボランティアの貴重性や重要性を感じられた時間となりました。



その後は全体場で、各受け入れ先の代表者の方から、ボランティアの内容や学校の様子などを教えていただきました。決められた時間の中で、教員を目指す参加者へのメッセージや学校の特色についてお話しいただき、時には笑いの生まれる場面もありました。どのような内容のボランティアをするのか、どれくらいの頻度で行けばよいのか、どの受け入れ先に行くべきかなど疑問に思っていた参加者も多かったようですが、受け入れ先の担当の方の話をよく聞き、真剣にメモを取るなどしていました。

最後に各受け入れ先の担当の方々が2つの教室に分かれ、個別の質問タイムの時間になりました。参加者は、興味を持ったブースに行き、全体での説明で疑問に思ったことなどを、積極的に質問していました。

教育ボランティアに参加したいけれど迷っている方や教育現場についてわからないことがある方などは、ぜひ次回（4月）のガイダンスに参加してください。

今年教育ボランティアに参加していない方も来年から参加することができます。

その他質問等があれば私たち学生運営委員もお答えします。



教育ボランティアニュース No.5

～1年間の活動を振り返ろう！！～

2024年12月11日 教育ボランティア学生運営委員

教育ボランティア報告会・・・12月11日（水）開催

12月11日に令和6年度教育ボランティア報告会が開催されました。今年の報告会でも、教員採用試験合格者かつ教育ボランティア経験者の4年生の方に体験発表をしていただいたり、教育ボランティアの形態や特徴、難しさ、良さについて話し合ったり…と学びの多い報告会となりました。班での説明が終わると各班代表者による発表の時間となり、参加者はそれぞれの班でどんな話し合いがされていたのか話を聞くことができました。本通信では本会の様子についてご報告させていただきます。

まず、教育ボランティア学生運営委員長から、子どもの成長の速さ、教育ボランティアはそれを見させていただく貴重な機会であることをお話しいただきました。

また、4年生の小池翔瑠さんには、教育ボランティア体験発表として、3年間の教育ボランティアを通して学んだことをわかりやすく説明していただきました。中でも、「自分自身に矢印を向けることの重要性」や「子供たちだけでなく自分たちも成長できる時間にしよう」という小池さんのマインドについて学べた点は、下級生にとって非常に貴重な勉強の時間となりました。



その後参加者は、各班に分かれて、ボランティアの内容や学校の様子などを話し合いました。「教育ボランティア」という先生ではない、他にないポジションで、生徒や児童とのコミュニケーションや教室での立ち回りの難しさを感じていること、ICTを活用した最近の授業を見たり参加したりして感じたことなどが話し合われました。ボランティアに行っている学校によって状況が違っていたり、教科によって立ち回りの難しさが変わったりすることに気づいた班もあり、非常に有意義な時間となりました。

最後に、各班代表者が話し合った内容をまとめ、全体場で発表しました。他の校種にボランティアに行った方の体験談や意見も聞くことができ、来年度のボランティアや将来について考える機会となりました。皆様1年間の教育ボランティアお疲れさまでした！！

教育ボランティアに参加したいけれど迷っている方や教育現場についてわからないことがある方などは、ぜひ次回（4月）のガイダンスに参加してください。

今年教育ボランティアに参加していない方も来年から参加することができます。

その他質問等があれば私たち学生運営委員もお答えします。



甲府市立西中学校・・・12月10日（火）訪問

訪問者：井坂 健一郎

甲府市立西中学校は、昭和12年4月に甲府市立男子高等小学校としての創立にはじまり、昭和22年4月に甲府市立西中学校として開校しました。現在の全校生徒数は379人です。「知を磨き、豊かな心とたくましい体をもった生徒の育成」を学校教育目標に掲げ、「一人一人の学力を保証し、願いや夢を実現できる学校」、「自他を尊重し、望ましい人間関係を醸成する学校」、「家庭や地域の教育力を取り入れ、子どもの成長をサポートする、地域と共にある学校」を目指しています。

今回は、芸術身体教育コース美術教育系3年の弘内那乃映さんが、特別支援学級の「書写」の授業で教育ボランティアとして活動しているところを訪問しました。弘内さんが一人一人の生徒に寄り添いながら、個に応じた支援をしている様子が随所に見られました。生徒たちも弘内さんの支援に対してとても喜んで授業に臨んでいました。そのような教育ボランティア活動での姿勢が西中学校でも評価されています。



生徒に寄り添って学習支援をする弘内さんの様子

【教育ボランティア学生インタビュー】

「教育ボランティアをやってみようと思ったのはなぜですか？」

○教師を目指す上で大学での学びだけでなく、現場で教師が働いている様子や生徒の様子を知っておく必要があると感じたため。

「教育ボランティア活動に参加してみて、教職を目指す気持ちに変化はありましたか？」

○教師になるためのステップとして教育ボランティア活動をしていたので、なりたいという気持ちには変わりはない。自分が教師になった時、どんなふうに対応しようかなと想像し目標や今後自分がやるべきことが明確になった感じがしている。

「これから教育ボランティア活動を始めようと考えている学生へのアドバイスは？」

○学生のうちに教育現場に携われる貴重な機会だと思います。自分のなりたい姿について考えながら活動すると力に繋がると思うので、目標を持って活動してみましょう！

【中込 幸雄教頭先生のお話】

本校では、数年前から大学生の皆さんが教育ボランティアとして関わってくれています。昨今、特別支援教育へのニーズも大きくなり、今まで以上にきめ細かな支援を求められる中で、本校でも、学生ボランティアさんに特別支援学級に多く関わってもらい、生徒との関係を築きながら学習面だけではなく心理面でも支援をもらい、たいへん助かっています。

また、教員を希望する人が減少傾向にある中で、学生のうちから長いスパンで定期的に学校現場に関わることは、教育実習とは異なる視点での気づきにもつながり、今後の進路を決める上で大きな経験になっていると思います。学校現場で学ぶ機会を、今後も活かしてください。

教育ボランティア活動を受け入れ、様々なご配慮をいただいている西中学校の先生方に感謝いたします。また、当日はお忙しいところをご対応くださった教頭の中込幸雄先生にあらためて御礼申し上げます。

令和6年度 委 員 一 覧

～ 教育ボランティア委員会 ～

委員長	志 村 結 美	教職支援部門教育ボランティア領域GL	生活社会教育講座
副委員長	佐々木 智 謙	教職支援部門教育ボランティア領域SL	科 学 教 育 講 座
委 員	仲 本 康一郎	教養教育センター	井 坂 健一郎 芸術身体教育講座
	田 中 健史朗	山梨県小学校特別教育講座	萩 原 佳 子 教育実践創成講座

～ 教 職 支 援 室 ～

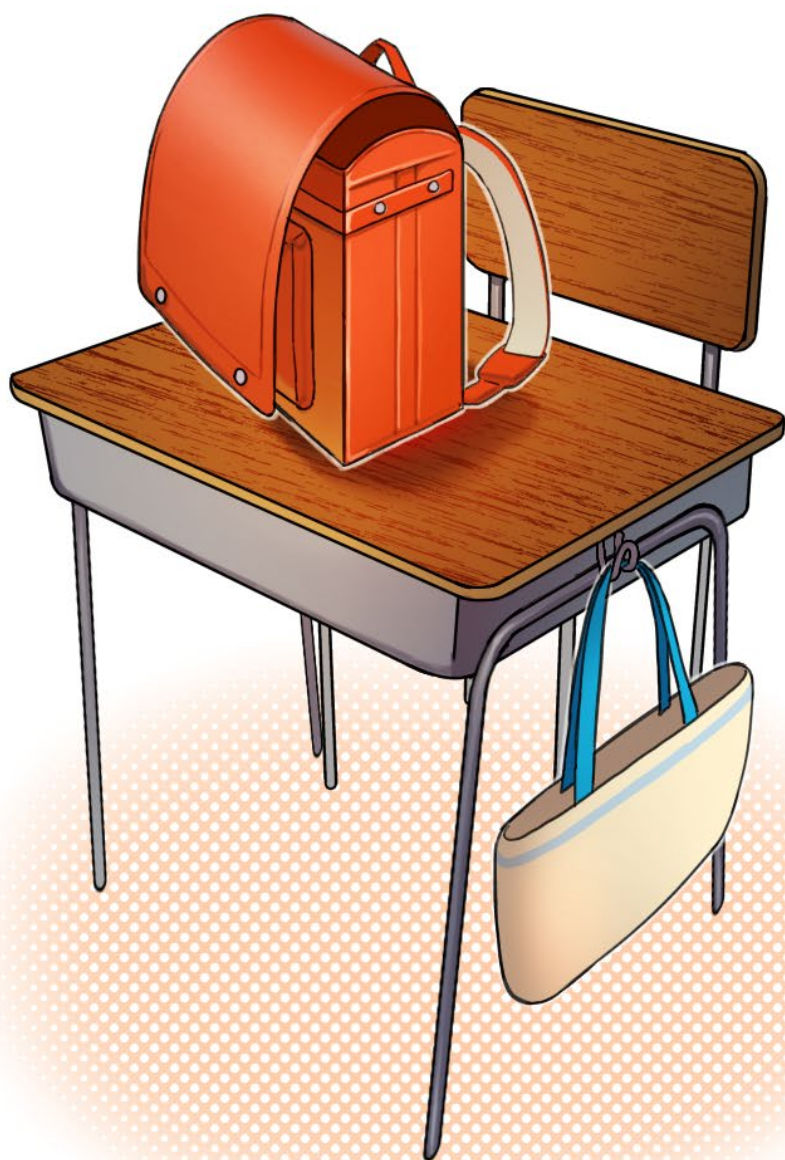
教職支援部門長	清 水 宏 幸
教職支援室室長	望 月 主 税
教職支援室 (教育ボランティア担当)	柴 田 幸 也 ・ 有 賀 望

～教育ボランティア学生運営委員会～

委 員 長	齊藤 健太 (3年)
副委員長	長澤陽二郎 (3年)
委 員	中平 渚紗 (3年) ・ 森 陽希 (3年) ・ 藤本 颯 (3年)
	弘内那乃映 (3年) ・ 後藤 瑠花 (2年) ・ 岩下 和紗 (2年)
	長谷川 鈴 (2年) ・ 古屋 祥汰 (2年) ・ 伊藤 実優 (2年)
	岩澤 胡春 (2年) ・ 小林 実々 (2年) ・ 山部 果凜 (2年)
	南 采希 (1年)

教育ボランティアガイダンスブック2025

編 集 者	山梨大学教育学部 教職支援室
	教育ボランティア委員会 教育ボランティア学生運営委員会
発行・印刷	令和7年3月吉日
発 行 所	山梨大学教育学部 教職支援室



山梨大学教育学部 附属教育実践総合センター 教職支援室

制作デザイン
芸術身体教育コース
笠井穂南